

平成21年

福島県感染症発生動向調査事業報告書

(平成21年1月～12月)

平成22年3月

福島県感染症情報センター  
(福島県衛生研究所)  
福島県感染症情報解析委員会

## はじめに

感染症発生動向調査は、平成 11 年 4 月の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下感染症法)の施行に基づき、各都道府県の「感染症発生動向調査事業実施要綱」によって実施されています。

福島県においても「福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱」により、平成 13 年 7 月から地方感染症情報センターを福島県衛生研究所内に移管・設置して、県内の患者情報及び病原体情報を一元的に収集し、その解析と提供を行ってきました。

情報センターが収集・解析した情報は、週報・月報として定点医療機関や医師会等の関係機関に還元し、さらに、衛生研究所のホームページへ掲載することで、県民の皆様幅広く情報提供を行っております。

平成 21 年には新型インフルエンザ A (H1N1) が発生しました。メキシコで起きた豚インフルエンザが発端となり、4 月下旬には世界中に広まりました。WHO はパンデミック警戒レベルをフェーズ 6 にまで引き上げ、それは現在も続いています。日本で初めて新型インフルエンザが確認されたのは 5 月でしたが、福島県においては 6 月に初めての感染者が確認されました。その後も感染者が相次ぎ、9 月には新型インフルエンザの流行が始まりました。22 年 2 月には流行は終息しましたが、今回の新型インフルエンザの突然の出現、流行を通して、感染症対策の重要性を改めて認識させられました。

このたび、平成 21 年の事業報告書を発行することになりました。発行に際し、定点医療機関をはじめ関係機関のご協力を深く感謝申し上げます。また、本報告書を広くご活用いただき、県民の感染症予防に役立ていただければ幸いです。

平成 22 年 3 月

福島県衛生研究所長 西田茂樹

# 目 次

福島県感染症発生動向調査事業実施概要	
( 1 ) 福島県感染症発生動向調査事業実施概要 .....	5
( 2 ) 福島県感染症情報センターの概念図 .....	6
福島県感染症発生動向調査事業一～五類，新型インフルエンザ等感染症全数把握 及び五類感染症定点把握，法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症 報告	
( 1 ) 一～五類，新型インフルエンザ等感染症【全数把握】対象結果報告 .....	8
( 2 ) 一～五類，新型インフルエンザ等感染症【全数把握】報告調査結果（福島県・ 全国）.....	14
( 3 ) 五類感染症【定点把握】対象結果報告 .....	16
( 4 ) 法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症結果報告 .....	42
検査情報	
( 1 ) 2009 年感染症発生動向調査事業報告（ウイルス） .....	48
( 2 ) 2009 年感染症発生動向調査事業報告（細菌） .....	54
( 3 ) 2008/09，2009/10 シーズンのインフルエンザの流行状況について .....	60

# 福島県感染症発生動向調査事業実施概要

## ( 1 ) 福島県結核・感染症発生動向調査事業の実施概要

### 1 実施体制

#### ( 1 ) 福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱等

本事業の実施に関わる要綱等は、本誌 資料に掲げるとおりである。

#### ( 2 ) 指定届出医療機関（定点選定）

福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱に基づき、指定届出医療機関【患者定点； 小児科：48 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（75）から（85）までに掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関を小児科定点として指定する。〕、 インフルエンザ：80 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（86）については、前記で選定した小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。〕、 眼科：12 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（87）及び（88）については、眼科を標榜する医療機関を眼科定点とする。〕、 STD：16 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（89）から（92）については、産婦人科又は産科若しくは婦人科、性病科又は泌尿器科を標榜する医療機関を性感染症定点とする。〕、 基幹：7 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（93）から（99）については、患者を 300 人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を各 2 次医療圏域毎に一カ所以上、基幹定点とする。〕、 疑似症：124 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（102）については、内科又は小児科を標榜する医療機関、（103）については、内科、小児科又は皮膚科を標榜する医療機関を疑似症定点とする。〕、及び病原体定点：21 医療機関〔各選定された患者定点の概ね 10%を病原体定点とする。〕】を選定する。

#### ( 3 ) 福島県感染症発生動向調査企画委員会

本事業の実施の推進を図るため、福島県感染症発生動向調査企画委員会を、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱により設置する。

#### ( 4 ) 福島県感染症情報解析委員会

収集した患者情報及び病原体情報を、より専門的な観点から解析、提供を行うため、福島県感染症発生動向調査企画委員会のもとに福島県感染症情報解析委員会を設置する。

### 2 実施状況

#### ( 1 ) 情報収集

ア 福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱により、患者定点として選定された医療機関は、調査単位が週（月曜日から日曜日まで）の場合は対象週の翌週の月曜日までに、月単位の場合は対象月の翌月の初日までに、FAX 等で保健所に送信する。

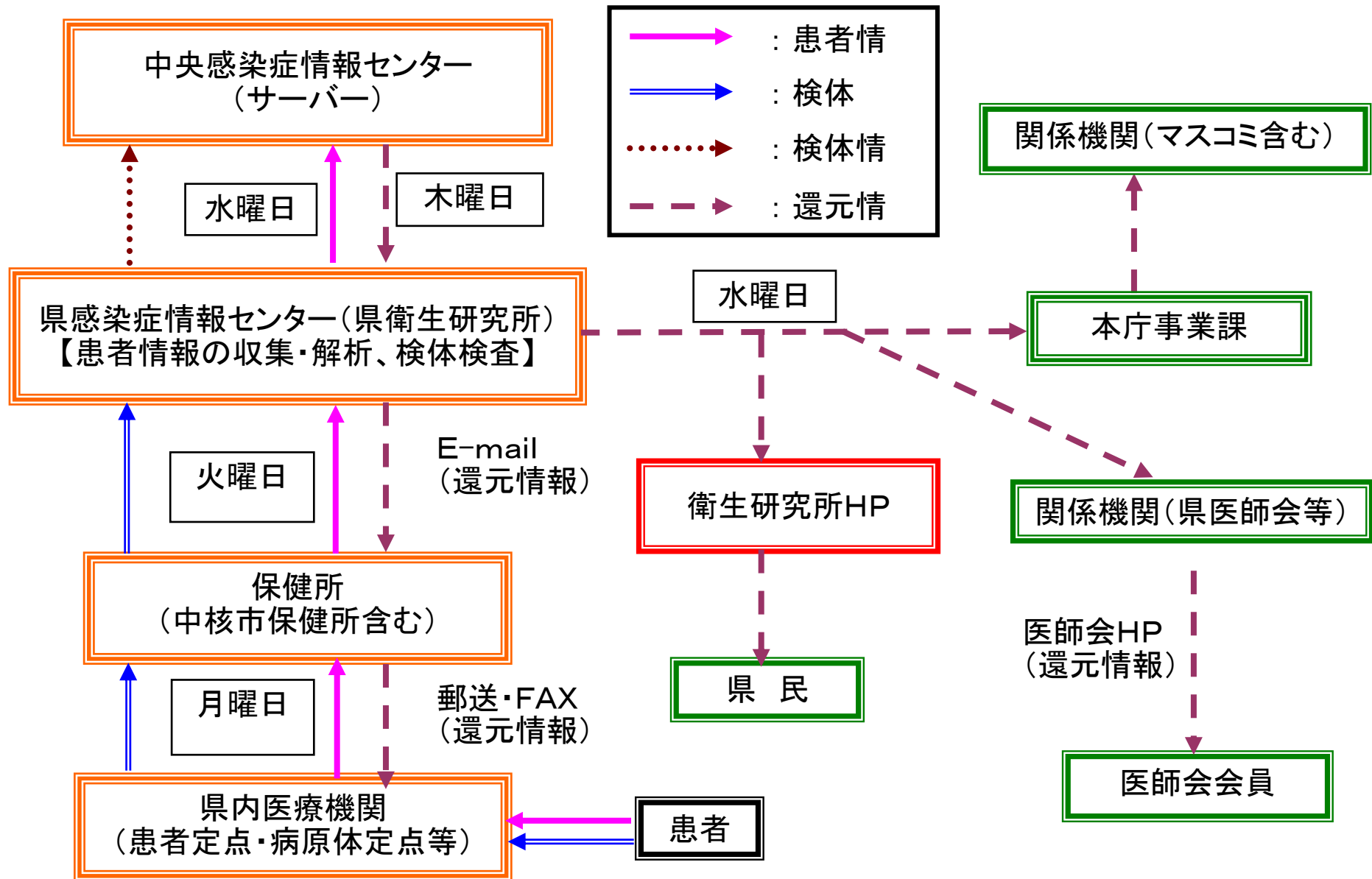
保健所は、患者定点から得られた患者情報を、調査単位が週の場合は調査対象週の翌週の火曜日までに、調査対象が月の場合は調査対象月の翌月の 3 日までに、福島県感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送する。

イ 福島県病原体検査実施要領により、各病原体定点から採取された検体は、福島県衛生研究所で検査を行い、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、検査情報として福島県感染症情報センター及び医療看護課に報告する。

#### ( 2 ) 情報還元

福島県感染症情報センターは、患者情報及び病原体情報を週単位および月単位で収集、解析するとともに、その結果を全国情報と併せて、週報及び月報等として保健所に提供するとともに福島県医師会、福島県教育委員会、その他関係機関等に提供・公開する。

## (2) 感染症情報センターの概念図



福島県感染症発生動向調査事業一～五類，  
新型インフルエンザ等感染症全数把握及び  
五類感染症定点把握，  
法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症  
報告

( 1 ) ー ~ 五類 , 新型インフルエンザ等感染症全数把握対象結果報告

一類感染症〔全数把握〕

( 1 ) エボラ出血熱 , ( 2 ) クリミア・コンゴ出血熱 , ( 3 ) 痘そう , ( 4 ) 南米出血熱 , ( 5 ) ペスト , ( 6 ) マールブルグ病 , ( 7 ) ラッサ熱の報告はなかった .

二類感染症〔全数把握〕

( 8 ) 急性灰白髄炎の報告はなかった . 報告の遅れとして平成 19 年 22 週診断の報告が 1 例あった .

( 9 ) 結核の報告は 285 例あった .

・結核報告状況

〔保健所別報告数〕

	県北	郡山市	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき市	計
21 年	87	66	4	14	39	1	25	49	285
20 年	151	41	25	18	41	3	28	42	349
19 年	66	24	17	14	32	3	15	26	197

平成 19 年は 4 月 1 日から 12 月 31 日までの報告数

( 10 ) ジフテリア , ( 11 ) 重症急性呼吸器症候群 ( 病原体が S A R S コロナウイルスであるものに限り ) , ( 12 ) 鳥インフルエンザ ( H5N1 ) の報告はなかった .

三類感染症〔全数把握〕

( 13 ) コレラの報告はなかった .

( 14 ) 細菌性赤痢の報告は 2 例あり , 郡山市から 1 例〔 33 週 ( 50 歳代 : 感染原因不明 ) 〕 , 会津から 1 例〔 12 週 ( 20 歳代 : 感染原因不明 ) 〕 の報告があった .

・細菌性赤痢年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
21 年	2 例	不明 ( 2 例 )
20 年	3 例	経口感染 : 海産物の生もの ( 1 例 ) , 不明 ( 2 例 )
19 年	1 例	経口感染 ( <i>Shigella flexneri</i> ) : 自宅で冷凍保存した白子

( 15 ) 腸管出血性大腸菌感染症の報告は 35 例あった .



・腸管出血性大腸菌感染症年別報告状況

〔保健所別報告数〕

	県北	郡山市	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき市	計
21年	5	14	0	3	6	0	6	1	35
20年	17	16	4	0	0	0	14	1	52
19年	4	4	1	1	2	0	4	38	54

〔月別報告数〕

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
21年	0	0	0	2	0	1	6	12	3	7	3	1	35
20年	0	0	0	1	0	1	11	16	8	8	3	4	52
19年	0	0	1	1	0	1	1	37	9	3	1	0	54

〔型別報告数〕

型	21年	20年	19年
O 26	15	20	37
O 103	6	0	2
O 111	0	3	0
O 121	1	1	4
O 157	10	28	11
不明他	3	0	0
計	35	52	54

(16) 腸チフス, (17) パラチフスの報告はなかった。

四類感染症〔全数把握〕

(18) E 型肝炎の報告は 1 例あり, 35 週に県北 (50 歳代: 豚の生レバーを摂食) から報告があった。

(19) ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む) の報告はなかった。

(20) A 型肝炎の報告は 4 例あり, 県北から 1 例〔18 週 (20 歳代, 推定感染地域: インド)], 郡山市から 1 例〔23 週 (30 歳代, 推定感染地域: グラム), いわき市から 2 例〔共に 31 週 (50 歳代, 感染地域: いわき市)〕の報告があった。

(21) エキノコックス症, (22) 黄熱, (23) オウム病, (24) オムスク出血熱, (25) 回帰熱,

(26) キャサヌル森林病, (27) Q 熱, (28) 狂犬病, (29) コクシジオイデス症,

(30) サル痘, (31) 腎症候性出血熱, (32) 西部ウマ脳炎, (33) ダニ媒介脳炎, (34) 炭疽の報告はなかった。

(35) つつが虫病の報告は 96 例あり，前期（1～6 月）に 11 例〔県北（3 例），郡山市（3 例），県中（4 例），県南（1 例）〕，後期（7～12 月）に 85 例〔県北（2 例），郡山市（19 例），県中（25 例），県南（34 例），相双（3 例），いわき市（2 例）〕の報告があった．

・つつが虫病年別報告状況

〔保健所別報告数〕

	県北	郡山市	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき市	計
21 年	5	22	29	35	0	0	3	2	96
20 年	10	16	18	18	3	1	1	0	67
19 年	2	9	12	14	6	0	1	0	44

〔月別報告数〕

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
21 年	0	0	0	3	4	4	0	0	0	14	41	30	96
20 年	0	1	0	6	10	5	0	0	0	8	22	15	67
19 年	1	0	3	0	4	5	0	0	0	0	21	10	44

(36) デング熱の報告は 1 例あり，35 週に郡山市（40 歳代，感染地域：イエメン）から報告があった．

(37) 東部ウマ脳炎，(38) 鳥インフルエンザ（H5N1 を除く），(39) ニパウイルス感染症，(40) 日本紅斑熱，(41) 日本脳炎，(42) ハンタウイルス肺症候群，(43) B ウイルス病，(44) 鼻疽，(45) ブルセラ症，(46) ベネズエラウマ脳炎，(47) ヘンドラウイルス感染症，(48) 発しんチフス，(49) ポツリヌス症の報告はなかった．

(50) マラリアの報告は 1 例あり，47 週に県南（学童，感染地域：セネガル）から報告があった．

(51) 野兔病，(52) ライム病，(53) リッサウイルス感染症，(54) リフトバレー熱，

(55) 類鼻疽の報告はなかった．

(56) レジオネラ症の報告は 10 例あり，県北から 1 例〔7 週（60 歳代）〕，郡山市から 2 例〔7 週（50 歳代），22 週（70 歳代）〕，県南から 2 例〔8 週（30 歳代），20 週（40 歳代）〕，会津から 5 例〔4 週（40 歳代，50 歳代，70 歳代），5 週（60 歳代），12 週（80 歳代）〕の報告があった．

・レジオネラ症年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
21 年	10 例	水系感染（3 例），不明（7 例）
20 年	7 例	水系感染（7 例）
19 年	12 例	水系感染（3 例），水系感染・塵埃感染（1 例），土（1 例），不明（7 例）

(57) レプトスピラ症，(58) ロッキー山紅斑熱の報告はなかった．

五類感染症〔全数把握〕

(59) アメーバ赤痢の報告は 14 例あり，県北から 3 例〔7 週（40 歳代），12 週（30 歳代），20 週（50 歳代）〕，郡山市から 6 例〔2 週（40 歳代），4 週（60 歳代），16 週（40 歳代），25 週（30 歳代），40 週（50 歳代），53 週（50 歳代）〕，県中から 2 例〔7 週（30 歳代），24 週（20 歳代）〕，相双から 2 例〔41 週（60 歳代），52 週（50 歳代）〕，いわき市から 1 例〔9 週（30 歳代）〕の報告があった．

・アメーバ赤痢年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
21 年	14 例	性行為感染（5 例），経口感染（1 例），不明（8 例）
20 年	12 例	性行為感染（3 例），経口感染（3 例），不明（6 例）
19 年	7 例	性行為感染（3 例），性行為感染・経口感染（1 例），不明（3 例）

(60) ウイルス性肝炎（E 型肝炎及び A 型肝炎を除く）の報告はなかった．

(61) 急性脳炎（ウエストナイル脳炎，西部ウマ脳炎，ダニ媒介脳炎，東部ウマ脳炎，日本脳炎，ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）の報告は 12 例あり，県北から 4 例〔7 週（幼児），10 週（幼児），43 週（幼児），44 週（学童）〕，郡山市から 5 例〔3 週（幼児），48 週（幼児，学童），53 週（学童，30 歳代）〕，県中から 1 例〔48 週（幼児）〕，いわき市から 2 例〔47 週（幼児，学童）〕の報告があった．

・急性脳炎年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
21 年	12 例	インフルエンザ（6 例），新型インフルエンザ（5 例），リステリア・モノサイトゲネス（1 例）
20 年	3 例	インフルエンザ（3 例）
19 年	3 例	不明（3 例）

(62) クリプトスポリジウム症の報告はなかった．

(63) クロイツフェルト・ヤコブ病の報告は 4 例あり，県北から 2 例〔ともに 47 週（70 歳代）〕，郡山市から 2 例〔17 週（60 歳代），29 週（70 歳代）〕の報告があった．

(64) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告は 2 例あり，郡山市から 2 例〔16 週（70 歳代），18 週（60 歳代）〕の報告があった．

・劇症型溶血性レンサ球菌感染症年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
21 年	2 例	不明（2 例）
20 年	1 例	不明（1 例）
19 年	1 例	不明（1 例）

(65) 後天性免疫不全症候群の報告は5例あり、県北から3例〔5週(40歳代:男性,無症候期),30週(50歳代:男性,AIDS),34週(50歳代:女性,無症候期)〕,郡山市から1例〔26週(40歳代:男性,AIDS)〕,いわき市から1例〔38週(20歳代:男性,無症候期)〕の報告があった。

・後天性免疫不全症候群年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
21年	5例	性的接触(異性間性的接触4例,同性間性的接触1例,)
20年	6例	性的接触(異性間性的接触2例,異性間・同性間性的接触3例),不明(1例)
19年	8例	性的接触(異性間性的接触3例,同性間性的接触1例),静注薬物常用・性的接触(異性間同性間不明)(1例),不明(3例)

(66) ジアルジア症,(67) 髄膜炎菌性髄膜炎,(68) 先天性風しん症候群の報告はなかった。

(69) 梅毒の報告は6例あり、県北から1例〔46週(20歳代:早期顕症梅毒)〕,郡山市から4例〔10週(40歳代:無症候梅毒),14週(30歳代:早期顕症梅毒),16週(40歳代:無症候梅毒),35週(30歳代:早期顕症梅毒)〕,いわき市から1例〔42週(10歳代:無症候梅毒)〕の報告があった。

・梅毒年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
21年	6例	性的接触(5例),不明(1例)
20年	4例	性的接触(3例),不明(1例)
19年	9例	性的接触(6例),不明(3例)

(70) 破傷風の報告は1例あり、36週に県北(50歳代)から報告があった。

(71) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の報告はなかった。

(72) バンコマイシン耐性腸球菌感染症の報告は1例あり、37週に県北(40歳代)から報告があった。

(73) 風しんの報告は2例あり、県北から1例〔32週(40歳代)〕,県中から1例〔26週(学童)〕の報告があった。

(74) 麻しんの報告は9例あり、県北から1例〔40週(70歳代)〕,県中から1例〔39週(40歳代)〕,県南から5例〔3週(30歳代),16週(40歳代),17週(学童,10歳代),31週(50歳代)〕,会津から1例〔20週(幼児)〕,相双から1例〔47週(20歳代)〕の報告があった。

・麻しん報告状況

	報告例	ワクチン接種歴
21年	9例	有り(2例),無し(4例),不明(3例)
20年	22例	有り(5例),無し(13例),不明(4例)

新型インフルエンザ等感染症〔全数把握〕

(100) 新型インフルエンザの報告は 252 例あり，県北から 43 例，郡山市から 51 例，県中から 8 例，県南から 14 例，会津から 46 例，南会津から 14 例，相双から 15 例，いわき市から 61 例の報告があった．なお，平成 21 年 7 月 24 日からは集団発生のみが届出の対象となり，平成 21 年 8 月 25 日からは新型インフルエンザ A(H1N1)に限り届出が不要となった．

(101) 再興型インフルエンザの報告はなかった．

(2) 一～五類, 新型インフルエンザ等感染症全数把握報告調査結果

対象疾患	全 国			福 島 県			
	平成21年*	平成20年*	平成19年	平成21年	平成20年	平成19年	
一類	エボラ出血熱						
	クリミア・コンゴ出血熱						
	痘そう						
	南米出血熱 (※1)						
	ペスト						
	マールブルグ病						
二類	ラッサ熱						
	急性灰白髄炎		2				
	結核 (※1)	26,253	28,419	21,946	285	349	197
	ジフテリア						
三類	重症急性呼吸器症候群(※2)						
	鳥インフルエンザ(H5N1)(※3)						
	コレラ	16	45	13			1
	細菌性赤痢	179	320	452	2	3	1
	腸管出血性大腸菌感染症	3,837	4,322	4,617	35	52	54
四類	腸チフス	29	57	47			2
	パラチフス	26	27	22			1
	E型肝炎	54	43	56	1		1
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)						
	A型肝炎	114	170	157	4	3	4
	エキノкокクス症	25	22	25			
	黄 熱						
	オウム病	21	9	29		1	1
	オムスク出血熱 (※1)						
	回帰熱						
	キャサスル森林病 (※1)						
	Q熱	2	3	7			
	狂犬病						
	コクシジオイデス症	2	2	3			
	サル痘						
	腎症候性出血熱						
	西部ウマ脳炎 (※1)						
	ダニ媒介脳炎 (※1)						
	炭疽						
	つつが虫病	455	442	382	96	67	44
	デング熱	92	104	89	1	3	
	東部ウマ脳炎 (※1)						
	鳥インフルエンザ(※4) (※1)						
	ニパウイルス感染症						
	日本紅斑熱	125	132	98			
	日本脳炎	3	3	10			
	ハンタウイルス肺症候群						
	Bウイルス病						
	鼻疽 (※1)						
	ブルセラ症	2	4	1			
	ベネズエラウマ脳炎 (※1)						
	ヘンドラウイルス感染症 (※1)						
	発しんチフス						
	ボツリヌス症		2	3			
マラリア	56	56	52	1	1		
野兔病		5			1		
ライム病	7	5	11				
リッサウイルス感染症							
リフトバレー熱 (※1)							
類鼻疽 (※1)							
レジオネラ症	689	893	668	10	7	12	
レプトスピラ症	15	42	35				
ロッキー山紅斑熱 (※1)							

五類	アメーバ赤痢	769	872	801	14	12	7
	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）	212	241	237		2	3
	急性脳炎（※5）	493	190	228	12	3	3
	クリプトスポリジウム症	17	10	6		1	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	140	152	157	4	1	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	103	113	95	2	1	1
	後天性免疫不全症候群	1,417	1,568	1,493	5	6	8
	ジアルジア症	74	76	53		1	
	髄膜炎菌性髄膜炎	10	10	17			
	先天性風しん症候群	1					
	梅毒	676	839	719	6	4	9
	破傷風	112	123	89	1		2
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症						
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	117	80	84	1	1	2
	風しん（※6）	147	303		2	2	
	麻しん（※6）	741	11,015		9	22	
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ（※7）	12,405			252		
	再興型インフルエンザ（※3）						

\* 全国の平成20年，平成21年のデータは未確定です

（※1）平成19年4月1日から調査開始

（※2）病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る

（※3）平成20年5月12日から調査開始

（※4）鳥インフルエンザ（H5N1）を除く

（※5）ウエストナイル脳炎，西部ウマ脳炎，ダニ媒介脳炎，東部ウマ脳炎，日本脳炎，ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く

（※6）平成20年1月1日から全数把握疾患となる

（※7）平成20年5月12日から調査開始，平成21年8月25日以降はインフルエンザA（H1N1）に限り届出不要となる

( 3 ) 五類感染症定点把握対象結果報告

五類感染症対象疾患（定点把握）

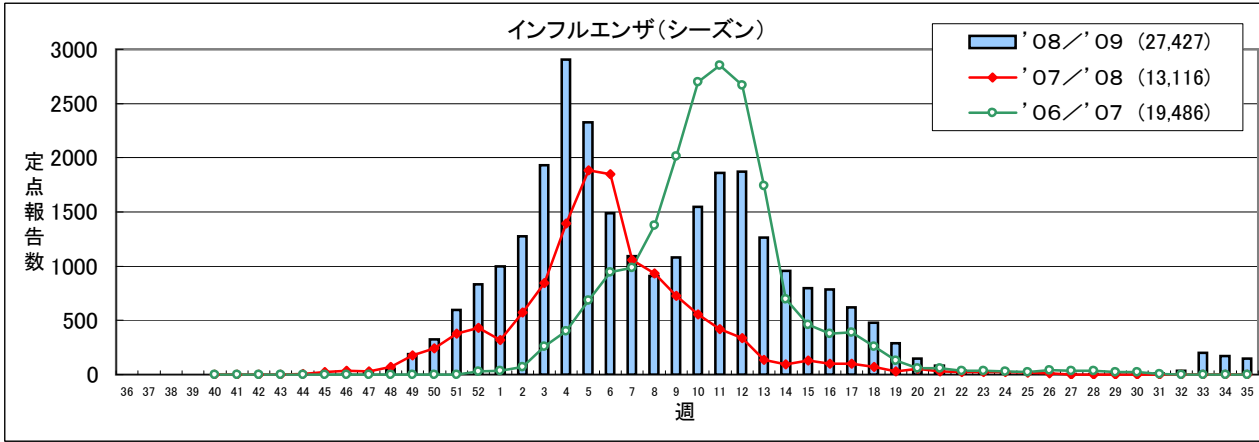
(86) インフルエンザ〔鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く〕 ( 80 インフルエンザ定点：32 内科定点，48 小児科定点)		週報対象疾患	
(75) RS ウイルス感染症	( 48 小児科定点)		
(76) 咽頭結膜熱	( 48 小児科定点)		
(77) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	( 48 小児科定点)		
(78) 感染性胃腸炎	( 48 小児科定点)		
(79) 水痘	( 48 小児科定点)		
(80) 手足口病	( 48 小児科定点)		
(81) 伝染性紅斑	( 48 小児科定点)		
(82) 突発性発しん	( 48 小児科定点)		
(83) 百日咳	( 48 小児科定点)		
(84) ヘルパンギーナ	( 48 小児科定点)		
(85) 流行性耳下腺炎	( 48 小児科定点)		
(87) 急性出血性結膜炎	( 12 眼科定点)		
(88) 流行性角結膜炎	( 12 眼科定点)		
(93) クラミジア肺炎〔オウム病を除く〕	( 7 基幹定点)		
(94) 細菌性髄膜炎	( 7 基幹定点)		
(96) マイコプラズマ肺炎	( 7 基幹定点)		
(97) 無菌性髄膜炎	( 7 基幹定点)		
(89) 性器クラミジア感染症	( 16 STD 定点)		月報対象疾患
(90) 性器ヘルペスウイルス感染症	( 16 STD 定点)		
(91) 尖圭コンジローマ	( 16 STD 定点)		
(92) 淋菌感染症	( 16 STD 定点)		
(95) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	( 7 基幹定点)		
(98) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	( 7 基幹定点)		
(99) 薬剤耐性緑膿菌感染症	( 7 基幹定点)		

五類感染症（定点把握）患者地域別定点機関数

	小児科定点	内科定点	眼科定点	基幹定点	STD 定点
県北	10	7	3	1	4
郡山市	7	5	2	1	2
県中	6	4	1	0	2
県南	4	3	1	1	1
会津	6	4	2	1	2
南会津	2	1	0	1	0
相双	5	3	1	1	2
いわき市	8	5	2	1	3
計	48	32	12	7	16



(86) インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)



インフルエンザ (80インフルエンザ定点)

08/09シーズンの定点報告数は27,427例あり、前シーズンと比較して2倍以上の報告数であった。第47週から郡山市を中心に流行が始まり、第49週に流行開始宣言をした。その後、県内各地域に流行が拡大し、第4週のピーク以降報告数が減少したが再び増加し、第12週に二回目のピークを迎え、第22週に終息となった。7月以降は、新型インフルエンザの流行により報告数が増加し、第33週に定点あたりの報告数が1.0を超えた。



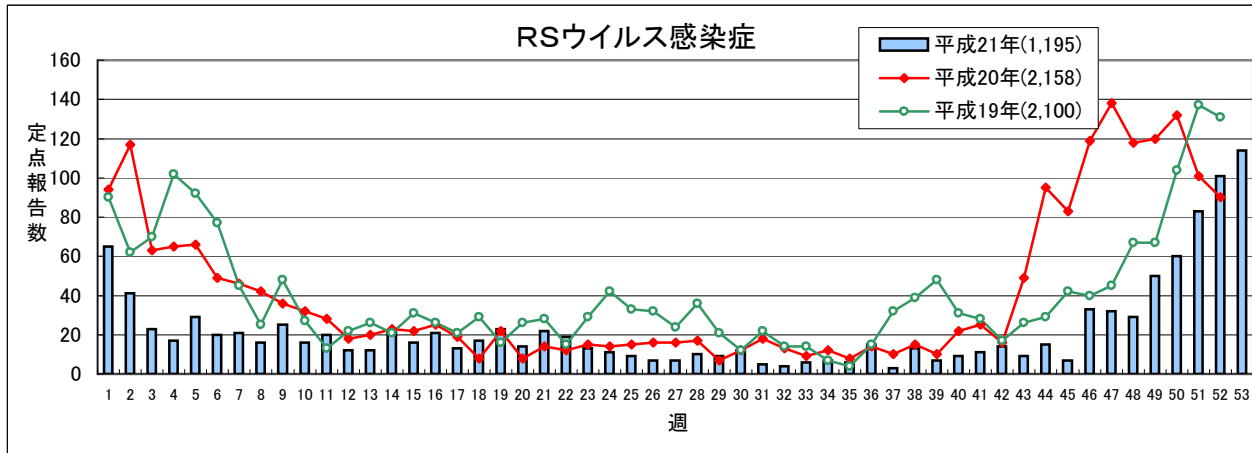
08/09シーズン 報告数

週	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w
県北	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	15	37	72	156	124	252	402	819	547	355	250	176	232	321
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	22	37	115	163	280	308	295	298	341	373	308	203	145	83	96	88
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9	45	47	47	100	165	139	186	231	176	102	101	89	111	210
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	11	37	82	119	200	131	214	305	198	165	100	84	100	129
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	15	33	53	149	208	396	394	197	148	163	150	249
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	9	6	19	36	104	88	90	57	28	15	8	10
相双	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	7	27	40	70	100	142	212	141	123	133	149	215	338
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	25	67	69	72	168	333	481	471	288	190	153	168	204
08/09	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	3	25	53	191	325	599	831	998	1273	1930	2905	2325	1490	1095	912	1080	1549
07/08					1	0	2	1	5	23	34	27	69	175	240	378	430	316	570	843	1392	1883	1851	1059	932	725	554
06/07					0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	28	35	70	259	403	683	945	989	1375	2012	2697
週	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	合計	
県北	412	400	285	132	82	65	89	60	43	26	17	0	5	2	0	2	0	0	2	0	1	52	40	47		5,204	
郡山市	199	245	202	165	121	155	136	110	70	33	12	10	3	1	2	0	1	0	0	0	7	11	56	29	10	4,649	
県中	216	343	263	175	125	89	64	47	30	17	6	0	4	1	6	0	0	0	0	0	1	1	8	16	11	2,972	
県南	187	176	99	58	66	89	48	41	27	14	19	11	3	0	2	1	1	0	0	0	0	6	22	16	8	2,642	
会津	277	200	123	116	125	100	92	73	49	30	21	7	10	2	0	0	3	0	0	0	1	3	27	29	25	3,226	
南会津	19	25	25	3	8	0	0	10	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	8	2	573	
相双	297	200	93	51	59	60	26	18	13	8	1	2	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	8	11	20	2,236	
いわき市	251	282	174	259	214	226	165	121	54	19	8	7	1	6	0	0	0	6	5	5	1	11	24	21	26	4,376	
08/09	1858	1871	1264	959	800	784	620	480	291	148	84	37	27	13	10	3	5	7	5	7	11	34	202	170	149	27,427	
07/08	421	336	135	95	129	103	100	68	30	52	32	24	21	25	16	10	2	2	0	1	1	0	0	1	2	13,116	
06/07	2850	2669	1745	697	463	376	392	257	127	58	60	36	38	27	24	44	33	34	24	22	4	1	1	1	0	19,486	

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	80歳~	合計
08/09	115	319	1060	1025	1368	1738	2012	2166	2201	1792	1595	5375	1300	1685	1647	994	518	228	177	112	27,427
07/08	65	222	565	662	805	1029	1321	1255	1042	902	835	1732	330	724	839	432	172	87	54	43	13,116

(75)RSウイルス感染症



RSウイルス感染症（48小児科定点）

定点からの年間報告数は1,195例あり、前年と比較し約4割減少した。前年末からの流行に引き続き、郡山市、県南を中心に流行が見られた。また、例年どおり11月頃から郡山市、県南、会津を中心に再び流行が始まり、その後県北、県中、相双でも流行が見られた。

年齢構成では、1歳までの報告が7割以上（77.1%）を占めた。



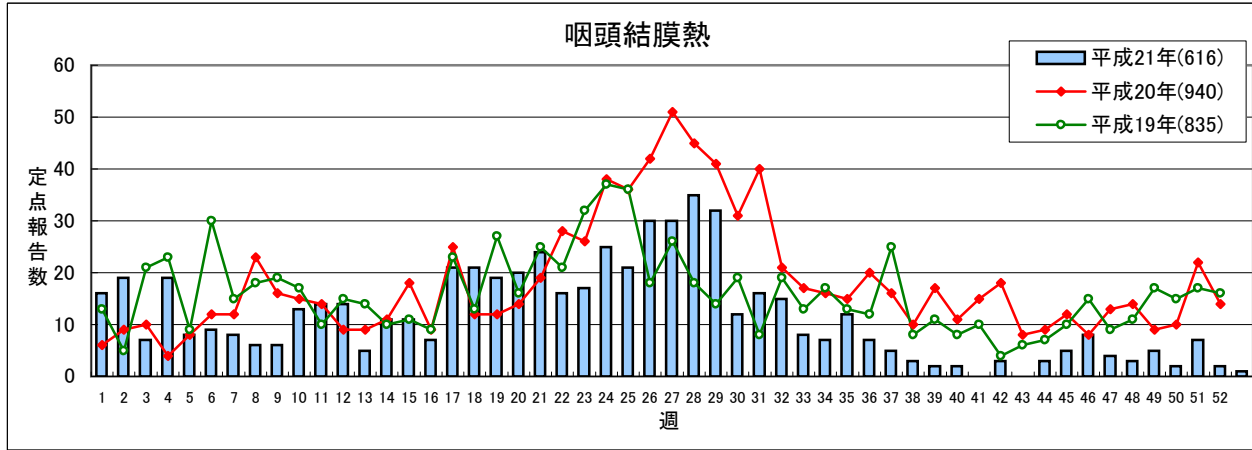
平成21年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	9	8	7	6	6	2	3	1	1	3	2	1	1	2	2	2	0	2	2	2	6	4	1	1	0	1	0
郡山市	26	14	5	1	8	10	7	7	12	9	13	11	10	19	12	15	12	12	21	12	14	14	7	7	9	3	6
県中	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
県南	11	11	9	6	12	7	10	7	7	3	5	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	17	3	2	2	1	0	1	1	4	1	0	0	1	1	1	2	0	1	0	0	2	0	5	3	0	3	0
いわき市	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H21	65	41	23	17	29	20	21	16	25	16	20	12	12	22	16	21	13	17	23	14	22	19	13	11	9	7	7
H20	94	117	63	65	66	49	46	42	36	32	28	18	20	23	22	25	19	8	22	8	14	12	15	14	15	16	16
H19	90	62	70	102	92	77	45	25	48	27	13	22	26	21	31	26	21	29	16	26	28	15	29	42	33	32	24
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	1	1	1	2	1	0	3	0	2	1	3	2	1	0	0	0	0	0	0	1	9	5	3	15	17	143	
郡山市	7	5	8	3	3	6	2	4	7	1	4	3	3	1	4	6	6	1	6	8	10	12	21	43	42	49	561
県中	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	7	4	12	11	43	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	4	3	1	3	5	8	11	13	143
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	1	2	7	7	3	5	5	21	19	14	20	11	20	12	11	169
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
相双	1	3	2	0	0	0	0	1	2	0	0	1	2	3	0	0	1	0	2	2	2	3	11	5	8	13	113
いわき市	0	0	1	0	0	0	2	1	4	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	19
H21	10	9	12	5	4	6	7	6	15	3	13	7	9	11	14	9	15	7	33	32	29	50	60	83	101	114	1,195
H20	17	7	12	18	13	9	12	8	14	10	15	10	22	25	16	49	95	83	119	138	118	120	132	101	90	-	2,158
H19	36	21	12	22	14	14	7	4	15	32	39	48	31	28	17	26	29	42	40	45	67	67	104	137	131	-	2,100

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H21	252	243	425	136	66	35	12	9	2	2	6	7	0	0	1,195
H20	433	447	703	317	123	63	33	10	8	9	5	6	0	1	2,158

(76)咽頭結膜熱



咽頭結膜熱（48小児科定点）

定点からの年間報告数は616例あり、前年と比較し約3割減少した。5月から7月にかけて県北、郡山市、県南、会津、相双、いわき市を中心に流行が見られた。

年齢構成では、1～5歳の報告が7割以上（74.5%）を占めた。

少ない     多い

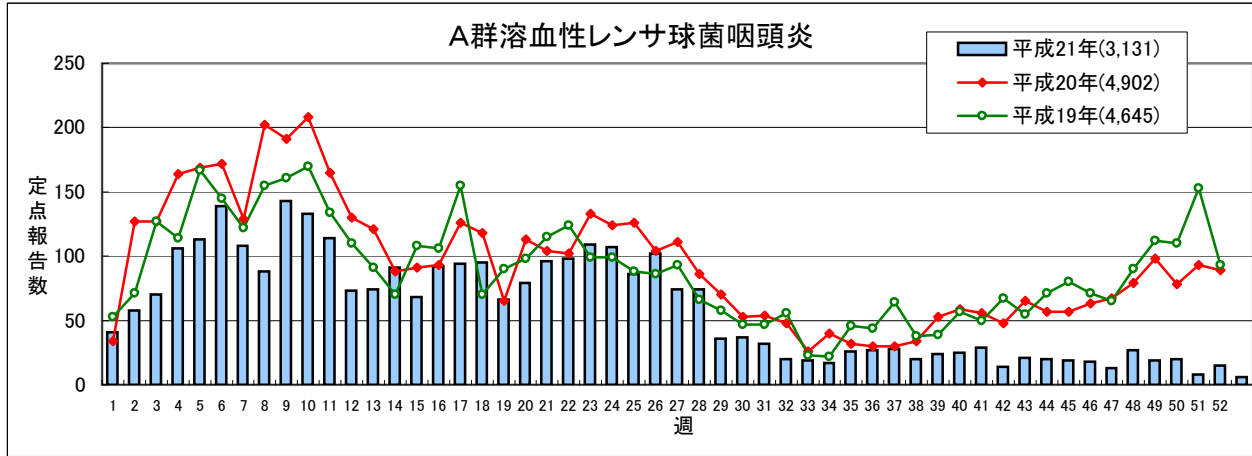
平成21年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	1	0	0	1	0	0	0	1	2	0	4	2	1	2	6	3	9	10	7	7	17	6	3	5	4	12	10
郡山市	1	0	1	2	1	2	1	0	1	4	1	2	0	5	2	1	6	2	4	7	2	0	2	5	4	7	5
県中	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	3	0	0	1	0	1	1	1	0	1	0	1	4	1	1	4	4
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	0	1	1	3	2	3
会津	9	10	3	2	3	1	3	3	3	4	1	8	2	0	1	0	1	0	1	1	0	6	4	3	4	0	3
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	1	4	0	3	1	1	0	1	0	3	2	2	2	2	1	1	2	3	3	0	1	2	0	2	1	1	2
いわき市	4	5	3	9	3	5	4	1	0	1	3	0	0	1	1	1	2	3	2	2	2	1	3	8	4	4	3
H21	16	19	7	19	8	9	8	6	6	13	14	14	5	11	11	7	21	21	19	20	24	16	17	25	21	30	30
H20	6	9	10	4	8	12	12	23	16	15	14	9	9	11	18	9	25	12	12	14	19	28	26	38	36	42	51
H19	13	5	21	23	9	30	15	18	19	17	10	15	14	10	11	9	23	13	27	16	25	21	32	37	36	18	26
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	14	4	2	8	3	3	3	0	1	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	161
郡山市	6	13	2	5	9	2	1	4	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	2	1	1	0	119	
県中	0	3	1	0	1	0	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	1	0	2	0	44	
県南	9	8	4	1	2	1	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	48	
会津	3	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	1	1	2	0	91	
南会津	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
相双	0	1	0	0	0	2	0	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	1	0	0	0	59	
いわき市	3	2	1	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	1	0	0	0	1	1	0	93
H21	35	32	12	16	15	8	7	12	7	5	3	2	2	0	3	0	3	5	8	4	3	5	2	7	2	1	616
H20	45	41	31	40	21	17	16	15	20	16	10	17	11	15	18	8	9	12	8	13	14	9	10	22	14	-	940
H19	18	14	19	8	19	13	17	13	12	25	8	11	8	10	4	6	7	10	15	9	11	17	15	17	16	-	835

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H21	5	46	149	77	91	84	58	30	19	19	13	18	0	7	616
H20	8	60	154	131	117	124	104	70	48	30	29	58	1	6	940

(77)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（48小児科定点）

定点からの年間報告数は3,131例あり、前年と比較し約4割減少した。南会津を除く県内全域で継続または断続した流行が見られた。例年のような秋以降の流行は見られなかった。

年齢構成では、4～6歳の報告が多かった。



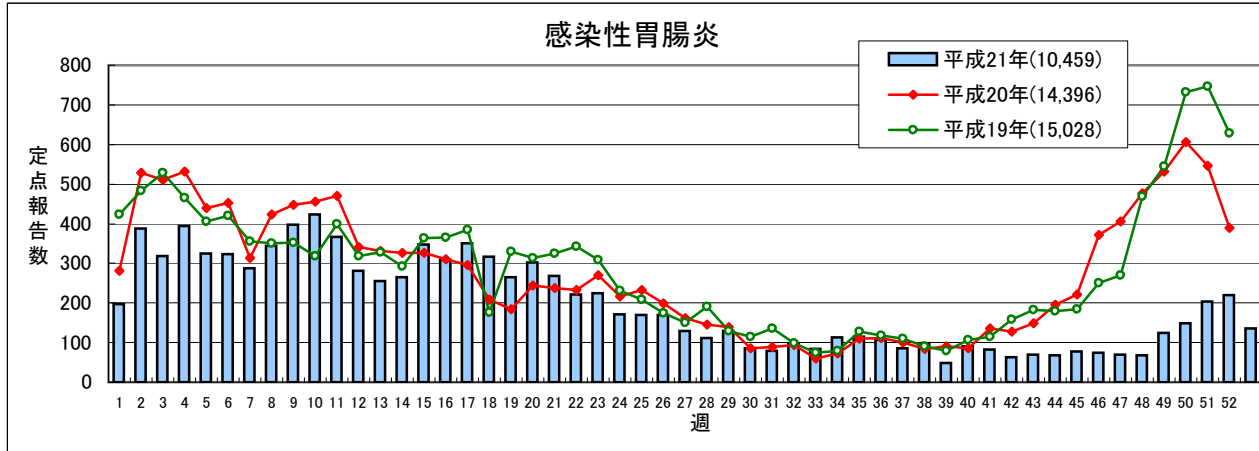
平成21年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	7	17	25	20	28	35	32	19	36	21	29	11	7	12	8	10	22	30	17	27	37	29	31	36	22	28	19
郡山市	9	7	13	16	11	18	8	13	12	27	16	15	10	12	4	10	19	13	19	11	20	20	26	23	20	20	19
県中	3	5	5	11	11	6	4	10	6	3	7	2	4	3	3	3	5	3	1	5	4	1	2	7	13	11	3
県南	8	9	5	15	15	21	26	16	31	34	28	13	7	6	7	10	7	9	2	7	6	8	19	10	9	7	5
会津	3	1	2	1	4	5	6	2	2	2	1	3	5	20	8	13	8	12	0	10	10	16	5	6	1	6	4
南会津	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
相双	1	7	4	10	12	9	4	2	10	10	11	11	10	10	16	21	14	6	3	2	3	6	4	2	2	4	5
いわき市	9	12	16	33	32	45	28	26	46	36	22	18	31	28	22	25	19	21	24	17	15	18	22	23	19	26	19
H21	41	58	70	106	113	139	108	88	143	133	114	73	74	91	68	92	94	95	66	79	96	98	109	107	86	102	74
H20	34	127	127	164	169	172	129	202	191	208	165	130	121	88	91	93	126	118	65	113	104	102	133	124	126	104	111
H19	53	71	127	114	167	145	122	155	161	170	134	110	91	70	108	106	155	70	90	98	115	124	99	99	88	86	93
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	29	8	12	7	12	8	5	8	14	12	5	9	13	13	5	9	5	5	6	3	6	2	3	2	2	3	821
郡山市	15	5	6	8	0	5	4	5	6	5	4	1	2	4	0	2	7	4	0	0	4	4	2	0	3	2	509
県中	1	3	0	3	2	0	2	2	2	0	3	2	1	1	1	3	3	2	2	6	7	2	5	1	2	1	198
県南	7	2	6	5	1	0	1	1	1	2	1	2	0	0	1	2	0	2	0	2	1	5	6	1	6	0	395
会津	3	5	3	4	2	4	2	4	1	1	2	2	2	4	2	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	202
南会津	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
相双	2	2	1	0	1	1	0	3	0	0	1	0	1	0	2	0	0	3	6	1	2	0	1	0	0	0	226
いわき市	17	11	8	5	2	1	3	3	3	8	4	8	6	7	3	3	5	3	2	0	7	6	3	4	2	0	776
H21	74	36	37	32	20	19	17	26	27	28	20	24	25	29	14	21	20	19	18	13	27	19	20	8	15	6	3,131
H20	86	70	53	54	48	26	40	32	30	30	34	53	59	56	48	65	57	57	63	67	79	98	78	93	89	-	4,902
H19	66	58	47	47	56	23	22	46	44	64	38	39	57	50	67	55	71	80	71	65	90	112	110	153	93	-	4,645

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H21	3	13	82	180	280	432	481	422	311	268	201	336	22	100	3,131
H20	0	26	162	312	474	712	781	713	467	398	241	477	28	111	4,902

(78) 感染性胃腸炎



感染性胃腸炎（48小児科定点）

定点からの年間報告数は10,459例あり、前年と比較し約3割減少した。年末の報告数増加はあまり見られなかった。

年齢構成では、1歳の報告が最も多く、次いで2歳、3歳、4歳、5歳の順に報告が多かった。



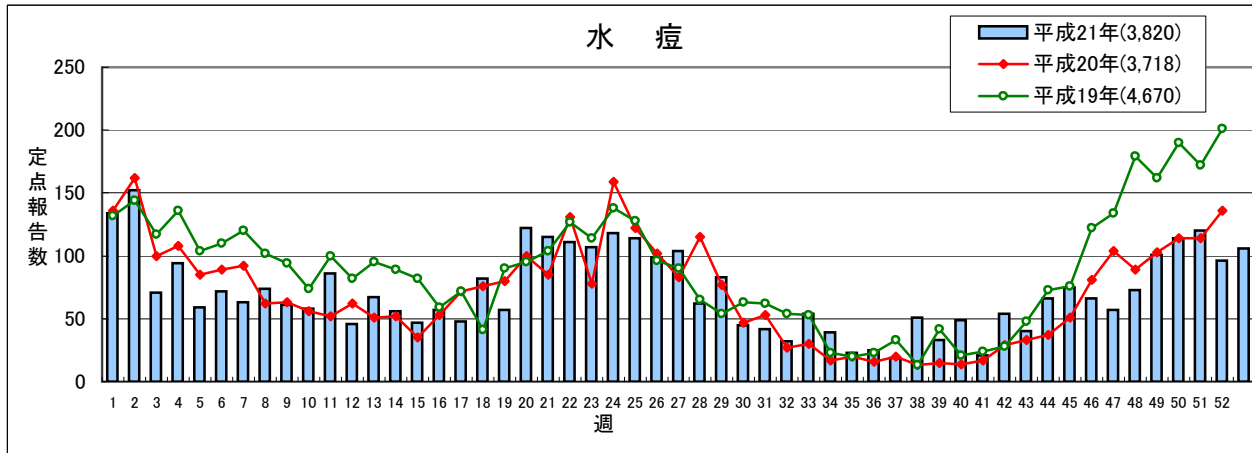
平成21年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	46	69	37	48	50	47	51	48	71	88	66	59	42	40	56	65	63	78	61	51	52	48	49	36	25	34	24
郡山市	16	20	22	24	22	28	25	29	45	72	61	37	50	62	77	63	80	54	41	41	31	30	28	27	20	21	13
県中	13	41	39	51	48	49	31	49	55	62	58	43	43	46	67	72	62	50	35	53	47	39	30	18	29	23	15
県南	9	11	21	14	21	22	13	30	28	20	20	15	10	13	14	27	28	22	11	32	26	17	21	11	11	12	6
会津	39	62	44	40	38	38	45	62	71	69	70	49	41	24	51	30	56	48	61	55	54	42	52	38	41	43	34
南会津	3	7	2	6	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
相双	25	88	53	72	48	47	39	55	49	48	38	40	32	27	32	27	32	36	26	37	28	30	28	26	31	26	26
いわき市	46	90	101	140	98	92	83	71	78	65	52	38	37	53	51	25	29	28	30	33	31	15	16	16	11	11	11
H21	197	388	319	395	325	323	288	344	397	424	367	281	255	265	348	309	350	316	265	302	269	221	224	172	169	170	129
H20	281	529	510	531	440	453	314	423	448	455	470	341	331	327	326	311	296	209	184	244	238	232	270	216	233	198	162
H19	424	484	529	466	406	420	356	350	352	319	399	319	328	293	364	365	384	176	329	313	325	342	309	231	208	174	151
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	26	42	22	16	17	33	23	21	16	23	16	12	29	18	10	11	14	13	19	19	19	18	18	36	45	22	1962
郡山市	16	18	15	10	8	12	9	8	8	10	5	6	2	14	9	12	3	7	9	11	7	16	17	16	29	15	1331
県中	16	17	11	20	15	9	27	30	27	18	28	13	4	16	11	10	6	10	7	15	5	10	14	19	17	12	1555
県南	2	2	0	2	3	2	1	3	2	3	5	0	3	2	1	1	2	2	4	3	1	4	12	12	9	7	573
会津	27	21	17	11	23	16	23	11	22	10	12	5	17	14	16	14	5	15	11	3	0	8	9	12	24	7	1650
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
相双	18	20	16	19	24	8	19	38	27	15	17	10	15	13	14	21	26	21	17	9	18	21	28	18	20	22	1540
いわき市	6	9	5	1	8	4	11	3	5	6	15	3	21	5	2	1	12	10	7	9	18	48	50	90	76	50	1826
H21	111	129	86	79	98	84	113	114	107	85	98	49	91	82	63	70	68	78	74	69	68	125	148	203	220	135	10,459
H20	146	139	86	89	94	59	73	110	112	100	84	90	86	135	127	149	195	221	371	406	477	532	606	547	390	-	14,396
H19	190	129	115	135	99	74	80	128	118	110	90	79	107	115	158	182	179	184	250	270	469	544	732	746	629	-	15,028

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H21	89	660	1490	1109	957	947	813	678	525	441	359	1027	270	1094	10,459
H20	98	815	2073	1442	1282	1293	1214	972	661	613	550	1432	342	1609	14,396

(79)水痘



水痘（48小児科定点）

定点からの年間報告数は3,820例あり、5月から7月にかけては県南、いわき市を中心に、11月から12月にかけては郡山市、県中、いわき市を中心に流行が見られた。流行の季節推移は例年とおりの形となった。

年齢構成では、1～5歳の報告が多く、約8割(79.6%)を占めた。



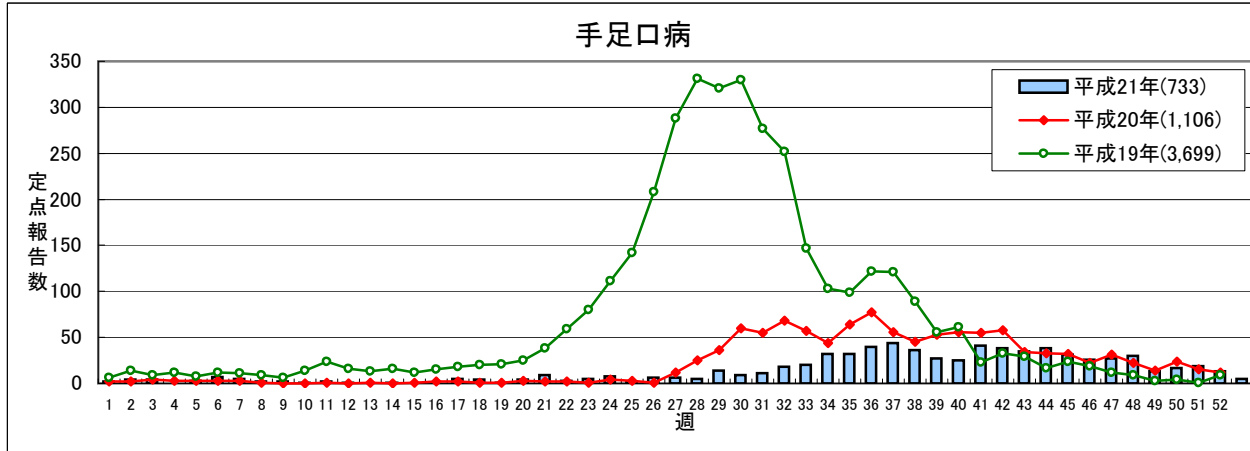
平成21年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	9	26	13	22	14	12	7	9	7	7	15	5	3	0	4	1	6	3	9	13	25	13	19	26	16	13	11
郡山市	32	32	18	24	5	19	6	16	7	15	12	9	16	9	7	2	6	10	5	10	11	11	12	20	13	15	16
県中	2	8	6	7	4	10	3	5	4	6	7	2	7	1	3	2	4	4	1	14	6	8	11	11	14	11	21
県南	3	5	3	4	4	7	3	14	4	6	5	8	11	4	7	4	3	2	3	13	25	13	16	11	24	7	9
会津	36	22	9	8	8	6	10	11	8	0	13	8	7	14	8	11	16	8	11	16	7	10	14	10	11	21	17
南会津	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3	1	3	1	1	0	1	0	0	1
相双	23	14	8	9	3	6	8	2	8	4	9	7	2	10	6	14	2	11	6	3	7	8	4	9	5	14	4
いわき市	27	45	13	19	20	12	26	17	23	20	25	7	20	16	12	23	11	41	21	50	33	47	31	30	31	18	25
H21	134	152	71	94	59	72	63	74	61	58	86	46	67	56	47	57	48	82	57	122	115	111	107	118	114	99	104
H20	136	162	100	108	85	89	92	62	63	56	52	62	51	52	35	53	72	76	80	100	85	131	78	159	122	102	83
H19	132	144	117	136	104	110	120	102	94	74	100	82	95	89	82	59	72	41	90	95	104	127	114	138	128	96	90
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	5	6	2	4	1	6	5	3	6	2	3	3	6	2	6	3	3	10	8	8	8	18	26	21	16	22	511
郡山市	8	7	5	10	7	16	4	6	6	2	10	10	11	7	10	14	16	10	19	19	11	11	14	15	11	17	634
県中	5	24	7	7	4	2	4	1	3	1	3	1	5	0	9	3	13	5	12	5	12	9	20	9	22	12	380
県南	6	10	7	3	5	0	10	2	2	2	3	3	2	0	5	1	7	2	0	1	1	5	5	3	7	5	315
会津	15	12	12	11	7	26	7	2	0	7	9	8	6	2	3	6	5	9	6	10	11	34	17	35	6	5	591
南会津	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	27
相双	7	4	4	1	3	3	3	5	3	4	10	2	7	1	6	1	7	4	6	0	2	2	4	2	4	3	304
いわき市	16	19	5	6	5	1	6	4	5	1	13	6	11	9	15	12	15	35	15	14	27	22	28	35	29	41	1058
H21	62	83	45	42	32	54	39	23	25	19	51	33	49	21	54	40	66	75	66	57	73	101	114	120	96	106	3,820
H20	115	77	47	53	27	30	17	20	16	20	13	15	14	17	29	33	37	51	81	104	89	103	114	114	136	-	3,718
H19	65	54	63	62	54	53	23	20	23	33	13	42	21	24	28	48	73	76	122	134	179	162	190	172	201	-	4,670

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H21	83	214	678	717	645	574	427	218	109	45	39	56	7	8	3,820
H20	68	227	716	688	613	603	363	176	84	48	42	57	4	29	3,718

(80)手足口病



手足口病 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は733例あり、前年より報告数は減少した。8月から10月にかけて県北、県南、相双を中心に流行が見られた。

年齢構成では、1～4歳の報告が多く、約8割(77.1%)を占めた。



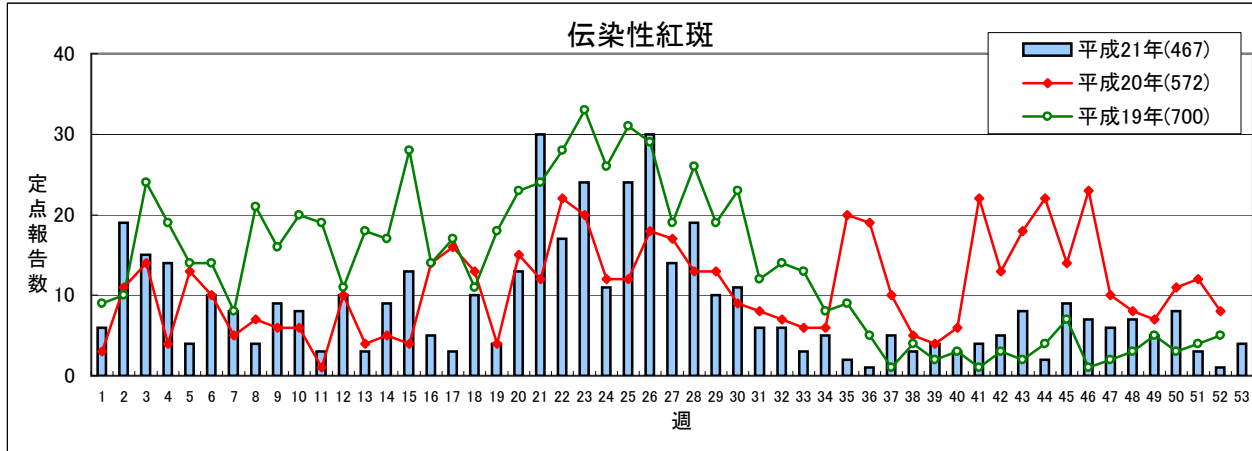
平成21年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	1	2	0	2	7	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	1	1	0	0	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3	5	2	1	1
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	3	1	0	3	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1
会津	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
いわき市	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	6	1	2	0	0	2	1
H21	2	4	4	0	3	7	5	2	2	1	2	1	0	1	0	0	5	4	1	4	9	3	5	8	2	6	6
H20	2	2	4	3	3	3	3	1	0	0	1	0	1	0	1	2	2	1	1	3	2	2	1	4	3	1	12
H19	6	14	9	12	8	12	11	9	6	14	24	16	13	16	12	15	18	20	21	25	38	59	80	111	142	208	288
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	0	1	1	2	6	2	10	13	14	4	4	2	5	14	14	13	11	10	1	8	6	5	5	7	6	3	187
郡山市	0	2	0	2	4	8	5	6	7	6	6	0	6	6	9	7	5	1	4	3	4	1	1	2	1	1	118
県中	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	5	1	1	5	2	3	1	2	3	3	1	3	0	0	0	44
県南	0	2	2	0	4	1	2	1	3	1	6	4	1	4	2	4	3	9	10	5	5	3	5	6	0	1	89
会津	2	3	0	0	0	2	3	0	3	11	4	4	2	5	0	4	5	2	3	3	3	1	2	2	3	0	74
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4
相双	0	1	1	2	2	4	4	8	11	19	15	10	6	9	4	2	7	3	5	2	0	0	0	0	0	0	118
いわき市	2	5	4	5	2	3	8	3	2	3	1	0	4	2	4	3	4	5	1	3	7	2	1	2	3	0	99
H21	5	14	9	11	18	20	32	32	40	44	36	27	25	41	38	35	38	31	26	27	30	13	17	19	13	5	733
H20	25	36	60	55	68	57	44	64	77	56	45	53	56	55	58	34	33	32	22	31	22	14	24	15	12	-	1,106
H19	331	321	330	277	252	147	103	99	122	121	89	56	61	23	33	29	17	24	19	12	9	3	4	1	9	-	3,699

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H21	3	45	209	181	98	77	48	22	19	10	2	15	1	3	733
H20	7	46	260	211	158	132	129	62	33	20	18	22	1	7	1,106

(81)伝染性紅斑



伝染性紅斑 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は467例あり、5月～7月に県南で流行が見られた。  
年齢構成では、4歳～6歳の報告が多く、約4割(41.3%)を占めた。

少ない 多い

平成21年 報告数

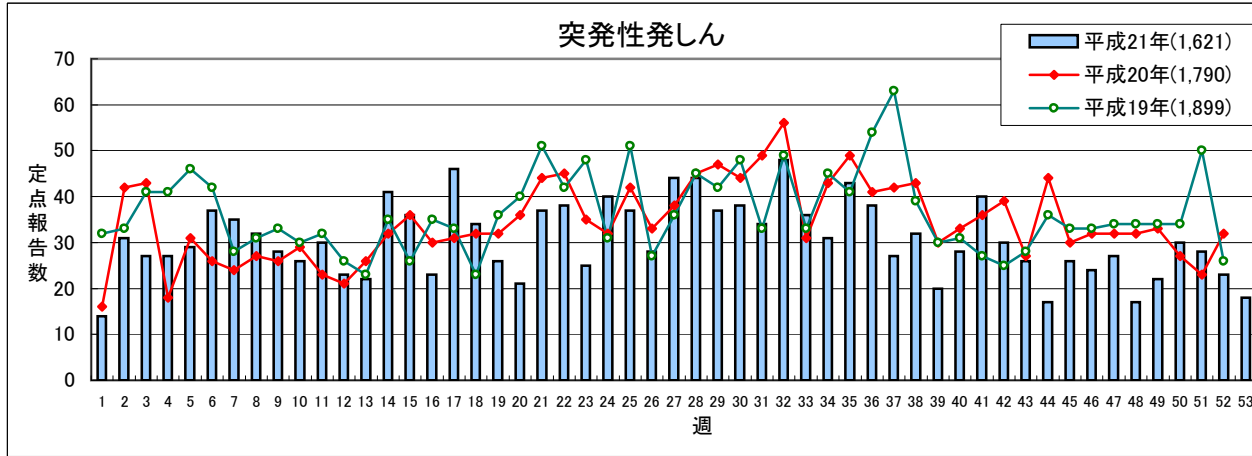
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	1	2	1	1	1	1	0	1	1	3	1	2	0	3	4	2	1	3	0	1	6	3	5	0	8	1	2
郡山市	1	4	5	4	0	3	1	2	2	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	1	1	0	0	0	0
県中	1	3	1	2	1	1	1	0	0	0	0	1	0	3	2	1	0	0	0	1	1	2	2	0	2	1	1
県南	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	1	1	0	1	0	3	0	3	12	3	9	9	12	13	5
会津	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	2	6	8	4	2	5	5	1	3	1	1	3	2	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	6	0
いわき市	1	2	0	2	0	0	1	0	3	1	0	2	0	0	5	0	1	3	1	5	11	8	7	2	2	9	6
H21	6	19	15	14	4	10	8	4	9	8	3	10	3	9	13	5	3	10	4	13	30	17	24	11	24	30	14
H20	3	11	14	4	13	10	5	7	6	6	1	10	4	5	4	14	16	13	4	15	12	22	20	12	12	18	17
H19	9	10	24	19	14	14	8	21	16	20	19	11	18	17	28	14	17	11	18	23	24	28	33	26	31	29	19
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	7	1	2	2	0	1	0	0	0	1	1	2	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	77
郡山市	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	2	0	2	0	2	1	1	2	0	0	0	0	0	45
県中	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	2	0	2	2	3	6	2	5	4	5	3	5	4	2	0	4	81
県南	8	4	3	3	3	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	102
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
相双	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	61
いわき市	2	3	5	1	2	1	3	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	96
H21	19	10	11	6	6	3	5	2	1	5	3	4	3	4	5	8	2	9	7	6	7	5	8	3	1	4	467
H20	13	13	9	8	7	6	6	20	19	10	5	4	6	22	13	18	22	14	23	10	8	7	11	12	8	-	572
H19	26	19	23	12	14	13	8	9	5	1	4	2	3	1	3	2	4	7	1	2	3	5	3	4	5	-	700

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H21	0	10	32	37	53	60	74	59	48	36	32	23	1	2	467
H20	3	24	37	41	45	79	94	73	53	52	35	33	1	2	572



## (82) 突発性発しん



### 突発性発しん (48小児科定点)

定点からの年間報告数は1,621例あり、例年どおりの報告数となった。

年齢構成では、1歳までの報告がほとんど(96.2%)であった。

少ない     多い

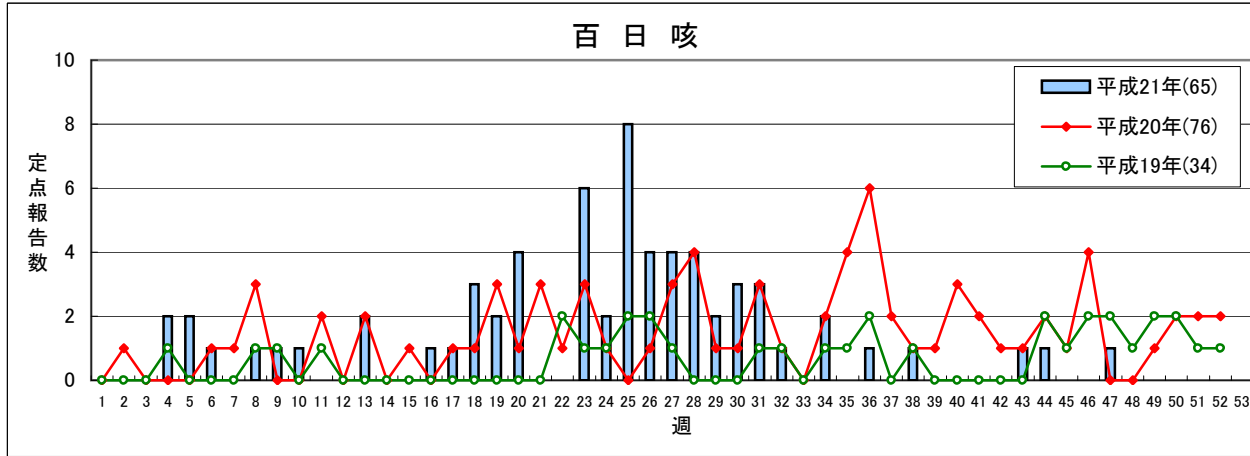
### 平成21年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	3	8	4	5	9	8	12	7	7	6	7	7	1	8	12	2	9	4	7	5	6	11	9	6	6	6	9
郡山市	2	6	8	6	2	6	5	5	6	8	4	2	2	5	6	5	5	10	4	1	7	6	6	5	4	4	5
県中	0	6	3	2	2	3	2	9	1	0	5	2	5	4	5	2	6	2	4	5	3	5	4	6	6	6	7
県南	0	0	2	3	1	3	1	1	1	1	2	1	1	5	3	1	2	0	3	3	0	2	1	2	1	2	4
会津	2	1	0	2	7	3	4	4	5	1	2	3	2	3	3	2	3	2	0	0	1	1	0	2	2	0	2
南会津	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	5	2	5	2	6	5	6	4	4	5	5	4	4	5	2	5	3	6	4	5	7	4	1	7	10	5	6
いわき市	2	7	5	7	2	9	5	2	3	5	5	4	7	11	5	6	18	10	4	2	13	9	4	12	8	5	11
H21	14	31	27	27	29	37	35	32	28	26	30	23	22	41	36	23	46	34	26	21	37	38	25	40	37	28	44
H20	16	42	43	18	31	26	24	27	26	29	23	21	26	32	36	30	31	32	32	36	44	45	35	32	42	33	38
H19	32	33	41	41	46	42	28	31	33	30	32	26	23	35	26	35	33	23	36	40	51	42	48	31	51	27	36
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	12	11	11	10	10	11	9	15	11	6	10	3	7	13	6	7	4	8	10	4	7	10	9	5	4	4	407
郡山市	8	7	7	7	11	9	5	6	6	4	7	3	11	3	6	5	4	4	2	7	3	6	5	7	6	2	286
県中	3	2	4	2	8	3	3	4	3	3	3	3	4	2	4	4	2	6	4	0	2	2	3	2	1	4	186
県南	1	1	2	1	2	1	1	4	2	4	1	2	1	2	0	2	2	0	2	1	2	0	5	4	4	2	95
会津	4	2	0	1	6	3	3	1	3	4	3	2	1	3	5	3	1	5	0	2	2	1	1	1	1	0	115
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
相双	4	5	7	5	4	8	4	8	6	2	6	3	1	8	1	1	0	1	1	1	0	3	4	0	1	0	211
いわき市	12	9	7	8	7	1	6	5	7	4	2	4	3	9	8	4	4	2	5	6	3	3	2	5	5	6	318
H21	44	37	38	34	48	36	31	43	38	27	32	20	28	40	30	26	17	26	24	27	17	22	30	28	23	18	1,621
H20	45	47	44	49	56	31	43	49	41	42	43	30	33	36	39	27	44	30	32	32	32	33	27	23	32	-	1,790
H19	45	42	48	33	49	33	45	41	54	63	39	30	31	27	25	28	36	33	33	34	34	34	50	26	-	1,899	

### 年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H21	51	865	643	54	2	1	2	0	2	0	1	0	0	0	1,621
H20	61	1047	647	28	5	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1,790

(83)百日咳



百日咳 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は65例あった。  
年齢構成は、2歳までの報告が約4割(35.4%)、10歳以上の報告が約3割(32.3%)であった。



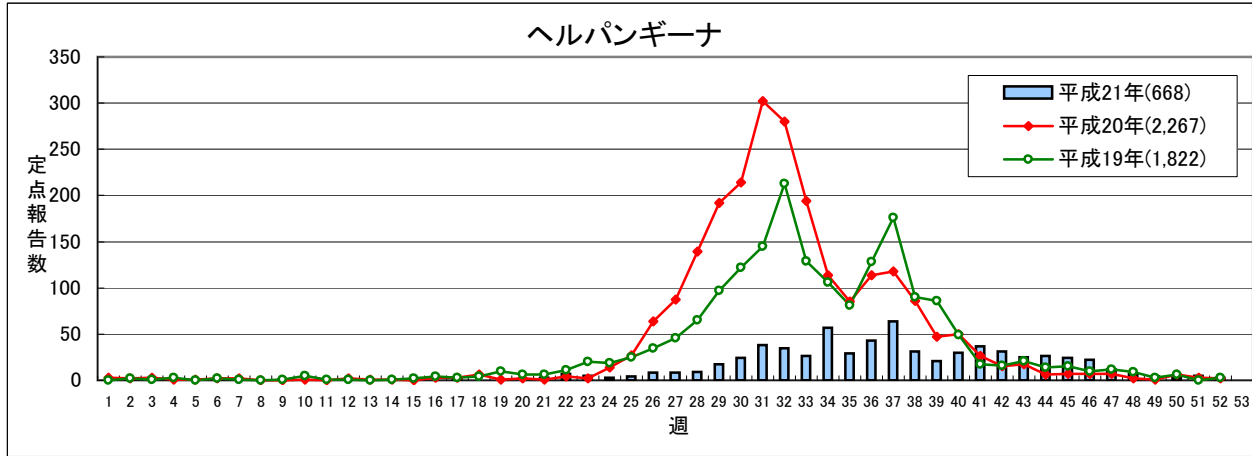
平成21年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5	1	2	0	2
郡山市	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	3	0
県中	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	1	0	1	0	1
いわき市	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
H21	0	0	0	2	2	1	0	1	1	1	0	0	2	0	0	1	1	3	2	4	0	0	6	2	8	4	4
H20	0	1	0	0	0	1	1	3	0	0	2	0	2	0	1	0	1	1	3	1	3	1	3	1	0	1	3
H19	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	2	2	1
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
会津	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
相双	2	2	3	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
H21	4	2	3	3	1	0	2	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	65
H20	4	1	1	3	1	0	2	4	6	2	1	1	3	2	1	1	2	1	4	0	0	1	2	2	2	-	76
H19	0	0	0	1	1	0	1	1	2	0	1	0	0	0	0	0	2	1	2	2	1	2	2	1	1	-	34

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H21	5	5	8	5	4	5	4	2	0	3	3	16	1	4	65
H20	6	9	7	3	2	7	3	1	1	2	2	19	3	11	76

(84)ヘルパンギーナ



ヘルパンギーナ（48小児科定点）

定点からの年間報告数は668例あり、前年と比較して約7割減少した。8月から郡山市、県南、会津、いわき市を中心に流行が始まり、11月まで続いた。

年齢構成では、1歳～3歳の報告が多く、約7割（66.2%）を占めた。



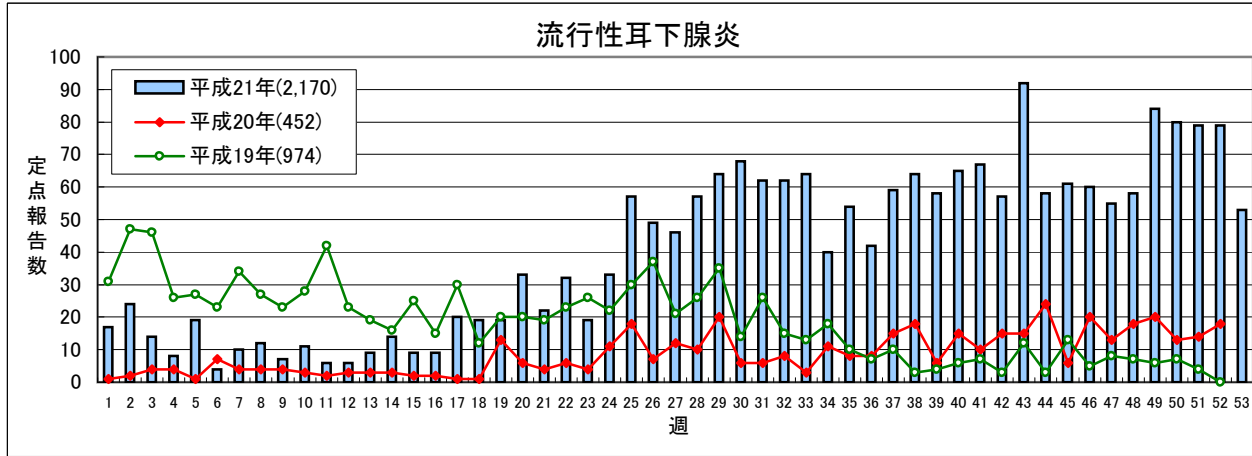
平成21年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3	0	1	2	4
郡山市	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	2	0	0
いわき市	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	1	4	4
H21	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	3	7	5	3	4	8	8
H20	3	2	3	1	1	2	2	0	0	1	0	2	1	1	0	3	3	6	1	2	1	4	2	14	27	64	87
H19	0	2	1	3	0	2	1	0	1	5	1	1	0	1	2	4	3	4	10	6	6	11	20	19	25	35	46
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	3	4	5	7	4	1	7	2	2	8	4	0	1	2	3	4	5	2	4	4	1	2	0	0	0	0	87
郡山市	2	0	3	4	6	5	8	9	15	16	8	4	10	8	9	7	4	3	3	2	0	0	0	2	0	0	131
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	4	2	3	2	3	2	0	0	0	0	0	0	0	19
県南	0	1	0	0	1	5	10	2	0	3	2	2	3	6	4	4	8	4	2	1	2	0	0	2	0	0	65
会津	0	0	4	4	10	1	13	6	3	8	3	2	3	9	5	4	5	10	9	5	1	0	1	1	0	0	107
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
相双	0	4	0	6	3	6	5	2	2	3	5	1	3	2	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	53
いわき市	4	8	12	17	11	8	14	8	20	26	9	11	9	6	7	1	0	2	2	0	3	2	2	0	3	0	204
H21	9	17	24	38	35	26	57	29	43	64	31	21	30	37	31	25	26	24	22	12	7	4	3	5	3	0	668
H20	139	192	214	302	280	194	114	85	114	118	86	47	50	26	15	17	6	7	7	7	2	1	6	3	2	-	2,267
H19	65	97	122	145	213	129	106	81	128	176	90	86	49	17	16	21	14	15	10	12	9	3	6	0	3	-	1,822

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H21	9	55	209	125	108	70	45	16	12	3	2	13	0	1	668
H20	18	184	630	495	366	267	153	64	34	20	14	21	0	1	2,267

(85) 流行性耳下腺炎



流行性耳下腺炎（48小児科定点）

定点からの年間報告数は2,170例あり、前年の5倍近い報告数であった。5月にいわき市を中心に流行が始まり、8月以降郡山市、会津、相双へと流行が拡大した。年齢構成では、4歳をピークに2～7歳の報告が多く、約8割(78.8%)を占めた。



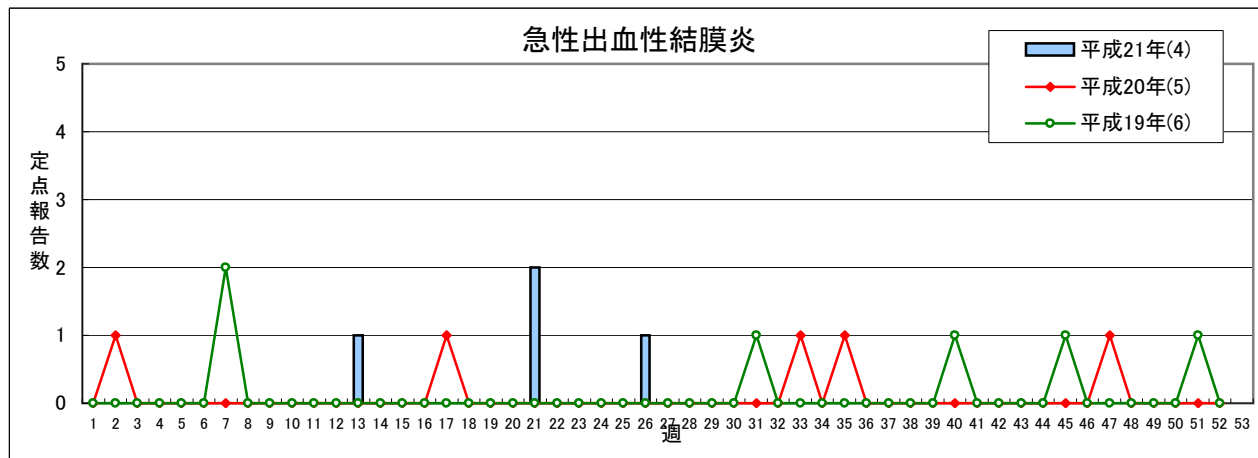
平成21年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	1	2	1	2	1	1	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	2	1	0	1	0	1	0	3
郡山市	3	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	1	4	2	3	6	5	6	
県中	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	1	2	2	
県南	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	5	3	0	
会津	1	1	0	0	0	2	0	0	0	3	1	1	3	2	2	0	2	4	0	4	1	3	1	5	5	9	8
南会津	1	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
相双	1	3	0	0	1	0	4	2	0	1	0	0	0	0	0	2	3	4	6	4	1	2	0	1	1	0	0
いわき市	9	17	12	3	13	1	5	6	7	5	4	4	5	10	6	7	14	8	11	18	18	23	15	20	38	30	27
H21	17	24	14	8	19	4	10	12	7	11	6	6	9	14	9	9	20	19	19	33	22	32	19	33	57	49	46
H20	1	2	4	4	1	7	4	4	4	3	2	3	3	3	2	2	1	1	13	6	4	6	4	11	18	7	12
H19	31	47	46	26	27	23	34	27	23	28	42	23	19	16	25	15	30	12	20	20	19	23	26	22	30	37	21
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	3	0	2	0	2	2	3	0	2	0	1	43
郡山市	4	9	12	11	12	16	8	9	8	10	17	6	9	14	6	18	12	17	11	9	15	21	25	23	19	11	372
県中	0	0	2	0	1	1	3	1	3	2	1	2	1	0	2	5	3	6	4	4	5	16	3	15	10	5	109
県南	0	3	1	0	0	1	0	1	4	3	1	0	3	1	2	5	0	0	11	5	2	7	2	4	5	3	78
会津	10	6	11	6	4	9	7	8	7	17	11	18	17	21	17	26	17	17	11	15	12	10	21	11	17	8	392
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	9
相双	5	3	4	3	7	4	4	3	7	8	6	5	4	6	6	11	5	2	5	3	4	2	6	4	6	4	163
いわき市	38	43	38	41	38	32	17	31	12	19	28	27	30	25	24	24	21	17	17	17	18	25	23	20	22	21	1004
H21	57	64	68	62	62	64	40	54	42	59	64	58	65	67	57	92	58	61	60	55	58	84	80	79	79	53	2,170
H20	10	20	6	6	8	3	11	8	8	15	18	6	15	10	15	15	24	6	20	13	18	20	13	14	18	-	452
H19	26	35	14	26	15	13	18	10	7	10	3	4	6	7	3	12	3	13	5	8	7	6	7	4	0	-	974

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H21	1	11	146	213	302	377	351	292	174	118	70	92	7	16	2,170
H20	1	0	20	42	57	61	85	66	45	28	20	21	3	3	452

# (87)急性出血性結膜炎



## 急性出血性結膜炎（12眼科定点）

定点からの年間報告数は4例あり、年間をととして散発事例のみであった。



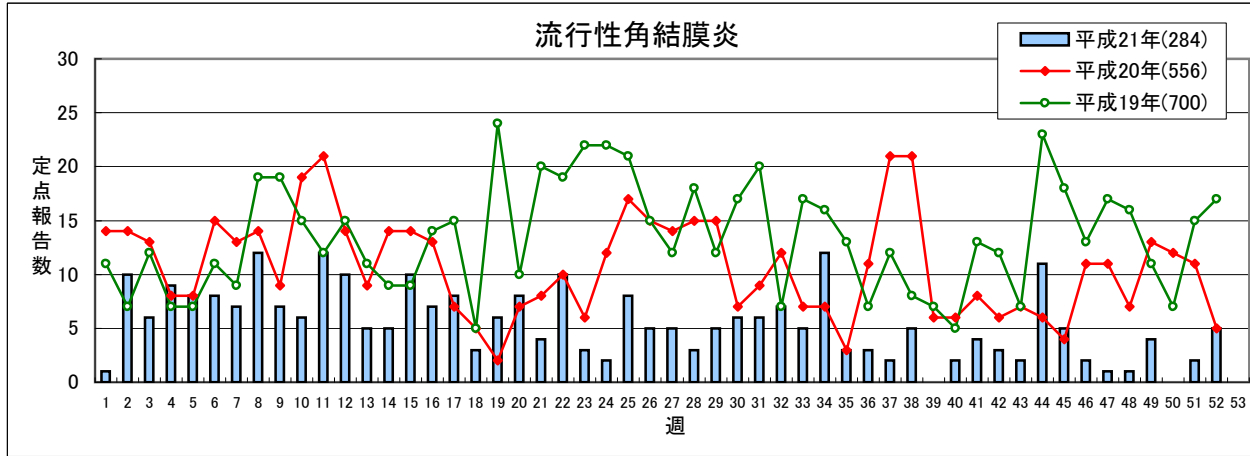
平成21年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	
H20	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H19	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
H20	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	—	5	
H19	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	—	6

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～	合計
H21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	4
H20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	5

(88) 流行性角結膜炎



流行性角結膜炎（12眼科定点）

定点からの年間報告数は284例あり、年間をとおして流行は見られなかった。  
年齢構成では、20歳以上の報告が、約8割(75.4%)を占めた。



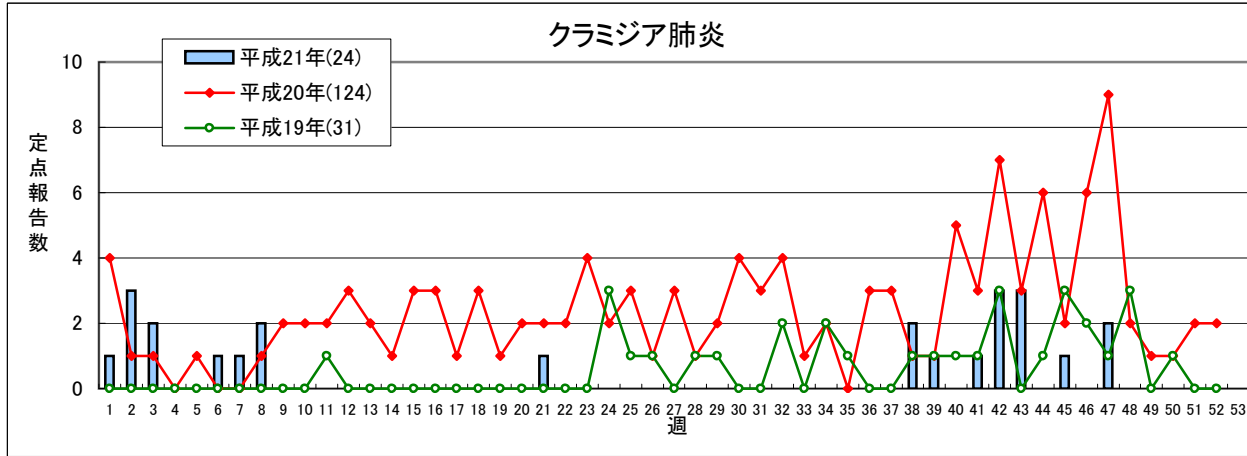
平成21年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	1	1	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	2
郡山市	0	4	1	1	1	2	5	5	2	3	1	5	2	0	5	2	2	0	3	0	0	1	0	1	4	2	0
県中	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
県南	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
会津	0	2	1	2	2	2	0	7	3	1	4	0	2	2	2	1	4	0	1	1	1	4	2	0	4	0	1
南会津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
相双	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	4	3	1	1	2	1	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1
いわき市	1	3	1	4	3	3	0	0	0	2	3	1	0	1	0	1	1	2	0	4	2	2	0	0	0	1	0
H21	1	10	6	9	8	8	7	12	7	6	12	10	5	5	10	7	8	3	6	8	4	10	3	2	8	5	5
H20	14	14	13	8	8	15	13	14	9	19	21	14	9	14	14	13	7	5	2	7	8	10	6	12	17	15	14
H19	11	7	12	7	7	11	9	19	19	15	12	15	11	9	9	14	15	5	24	10	20	19	22	22	21	15	12
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	1	0	0	0	0	0	27
郡山市	2	1	2	3	5	3	4	0	1	0	1	0	0	2	2	0	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	84
県中	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	6
県南	0	2	2	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
会津	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	1	0	2	0	1	2	3	2	0	0	0	0	0	0	5	0	70
南会津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
相双	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	2	0	1	0	0	31
いわき市	1	2	1	0	0	0	4	0	0	1	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	48
H21	3	5	6	6	7	5	12	3	3	2	5	0	2	4	3	2	11	5	2	1	1	4	0	2	5	0	284
H20	15	15	7	9	12	7	7	3	11	21	21	6	6	8	6	7	6	4	11	11	7	13	12	11	5	—	556
H19	18	12	17	20	7	17	16	13	7	12	8	7	5	13	12	7	23	18	13	17	16	11	7	15	17	—	700

年齢構成

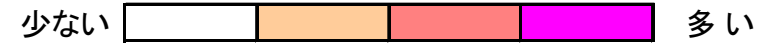
	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～	合計
H21	1	2	6	4	10	5	8	3	2	2	6	11	10	48	63	40	30	14	19	284
H20	3	1	4	7	10	7	7	8	1	15	4	18	25	100	148	75	54	37	32	556

(93)クラミジア肺炎(オウム病を除く)



クラミジア肺炎 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は郡山市からの14例、いわき市からの10例であった。  
年齢構成では、60歳以上が約3割(33.3%)を占めた。



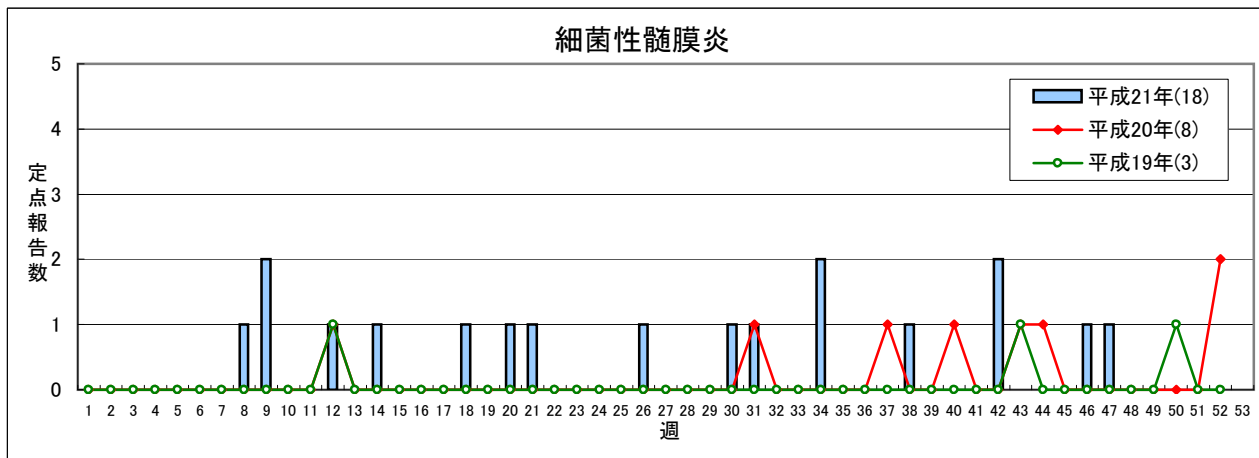
平成21年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	1	3	2	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
H21	1	3	2	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
H20	4	1	1	0	1	0	0	1	2	2	2	3	2	1	3	3	1	3	1	2	2	2	4	2	3	1	3
H19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	2	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	10
H21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	3	3	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	24
H20	1	2	4	3	4	1	2	0	3	3	1	1	5	3	7	3	6	2	6	9	2	1	1	2	2	—	124
H19	1	1	0	0	2	0	2	1	0	0	1	1	1	1	3	0	1	3	2	1	3	0	1	0	0	—	31

年齢構成

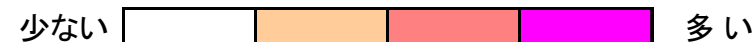
	~0歳	~4歳	~9歳	~14歳	~19歳	~24歳	~29歳	~34歳	~39歳	~44歳	~49歳	~54歳	~59歳	~64歳	~69歳	70歳~	合計
H21	0	4	1	2	3	0	1	1	1	0	0	2	1	0	1	7	24
H20	0	0	4	5	0	4	7	4	8	3	1	6	13	12	14	43	124

(94)細菌性髄膜炎



細菌性髄膜炎（7基幹定点）

定点からの年間報告数は郡山市からの14例、会津からの1例、いわき市からの3例であった。



平成21年 報告数

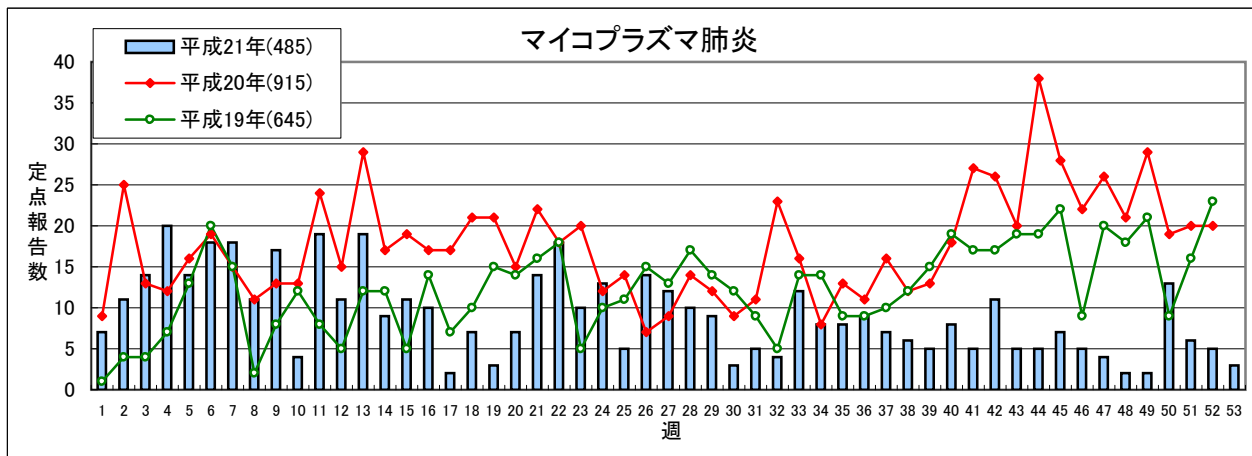
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
H21	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0
H20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
郡山市	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	14	
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
H21	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	18	
H20	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	—	8	
H19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	—	3	

年齢構成

	～0歳	～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～24歳	～29歳	～34歳	～39歳	～44歳	～49歳	～54歳	～59歳	～64歳	～69歳	70歳～	合計
H21	2	3	2	1	1	1	0	0	1	1	0	0	3	0	0	3	18
H20	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	1	8



# (96) マイコプラズマ肺炎



## マイコプラズマ肺炎（7基幹定点）

定点からの年間報告数は485例あった。報告数のほとんどが、県北、南会津、いわき市からのものであり、いわき市の報告数は全体の約6割(56.1%)を占めた。

年齢構成では、14歳以下の報告が約9割(87.8%)を占めた。

少ない  多い

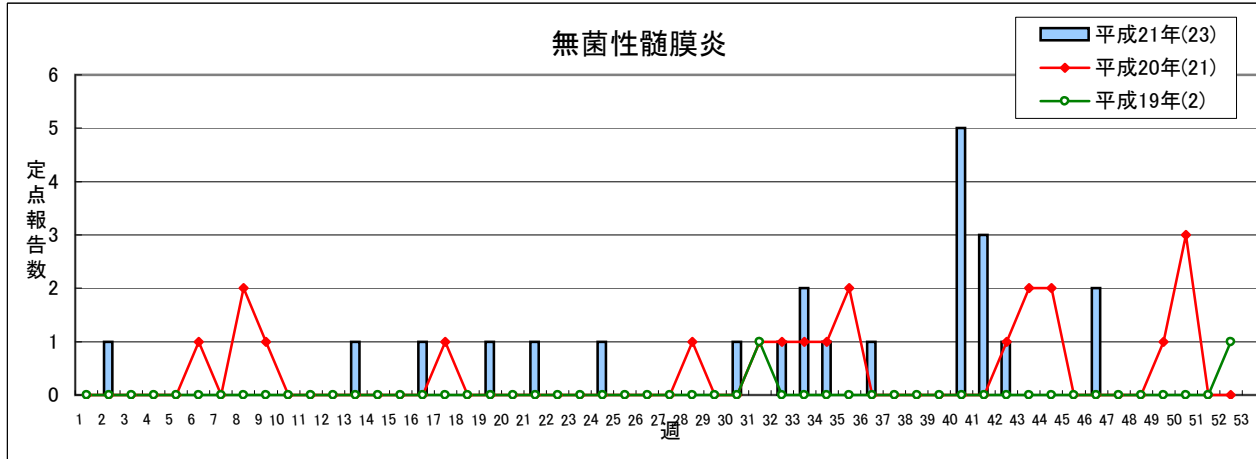
### 平成21年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	1	1	2	2	2	2	3	2	1	0	2	1	1	2	1	1	0	2	1	2	1	2	2	2	1	3	3
郡山市	0	1	1	1	2	1	3	2	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	1	1	5	4	7	11	5	0	4	3	8	5	8	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0
相双	2	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	0	2	0	0	0
いわき市	3	8	6	12	3	4	7	6	7	1	9	5	8	7	9	8	2	3	1	4	12	15	7	7	4	11	9
H21	7	11	14	20	14	18	18	11	17	4	19	11	19	9	11	10	2	7	3	7	14	18	10	13	5	14	12
H20	9	25	13	12	16	19	15	11	13	13	24	15	29	17	19	17	17	21	21	15	22	18	20	12	14	7	9
H19	1	4	4	7	13	20	15	2	8	12	8	5	12	12	5	14	7	10	15	14	16	18	5	10	11	15	13
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	3	2	0	2	1	1	2	1	2	1	1	2	2	2	2	3	1	2	2	2	1	2	2	3	2	3	90
郡山市	1	1	0	0	0	0	2	0	2	2	1	1	0	1	0	0	1	2	0	2	0	0	1	0	0	0	34
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	75
相双	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
いわき市	5	5	3	2	2	11	4	7	5	3	4	2	6	2	9	0	3	3	2	0	1	0	9	3	3	0	272
H21	10	9	3	5	4	12	8	8	9	7	6	5	8	5	11	5	5	7	5	4	2	2	13	6	5	3	485
H20	14	12	9	11	23	16	8	13	11	16	12	13	18	27	26	20	38	28	22	26	21	29	19	20	20	—	915
H19	17	14	12	9	5	14	14	9	9	10	12	15	19	17	17	19	19	22	9	20	18	21	9	16	23	—	645

### 年齢構成

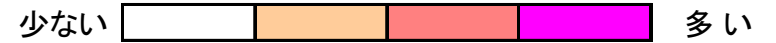
	～0歳	～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～24歳	～29歳	～34歳	～39歳	～44歳	～49歳	～54歳	～59歳	～64歳	～69歳	70歳～	合計
H21	7	196	162	61	11	5	5	3	8	1	3	2	1	0	1	19	485
H20	16	338	282	136	17	16	18	16	10	4	7	7	4	2	1	41	915

(97)無菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎（7基幹定点）

定点からの年間報告数は郡山市からの23例であった。



平成21年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H21	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0
H20	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	1	0	1	2	1	0	1	0	0	0	5	3	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	23
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H21	0	0	1	0	1	2	1	0	1	0	0	0	5	3	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	23
H20	1	0	0	1	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	0	1	3	0	0	—	21
H19	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	—	2

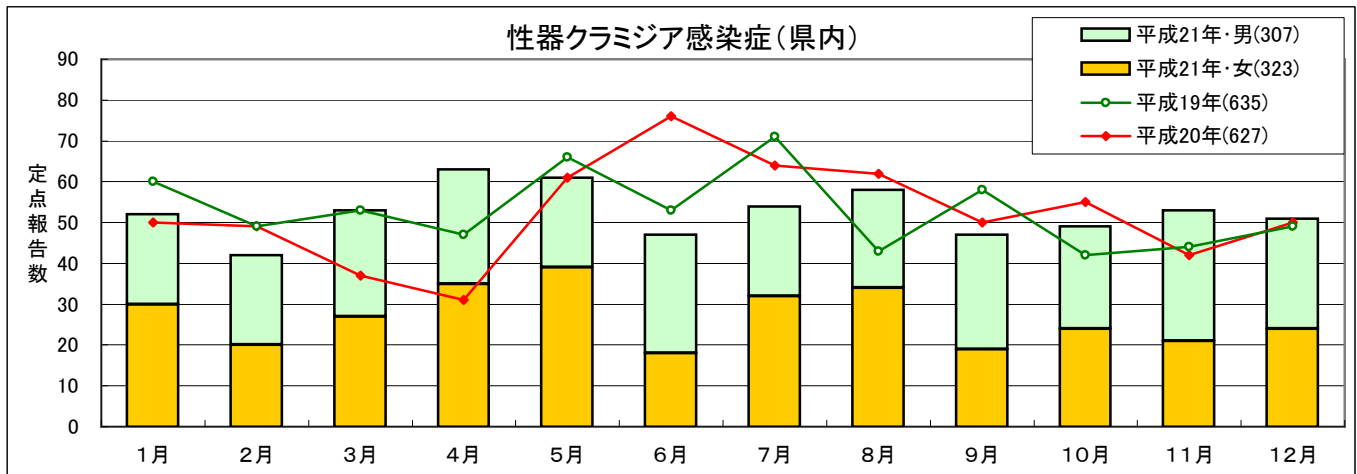
年齢構成

	～0歳	～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～24歳	～29歳	～34歳	～39歳	～44歳	～49歳	～54歳	～59歳	～64歳	～69歳	70歳～	合計
H21	3	1	3	2	1	2	3	1	4	0	0	0	1	0	0	2	23
H20	1	0	2	0	1	6	3	2	1	1	0	0	1	0	1	2	21

## (89) 性器クラミジア感染症

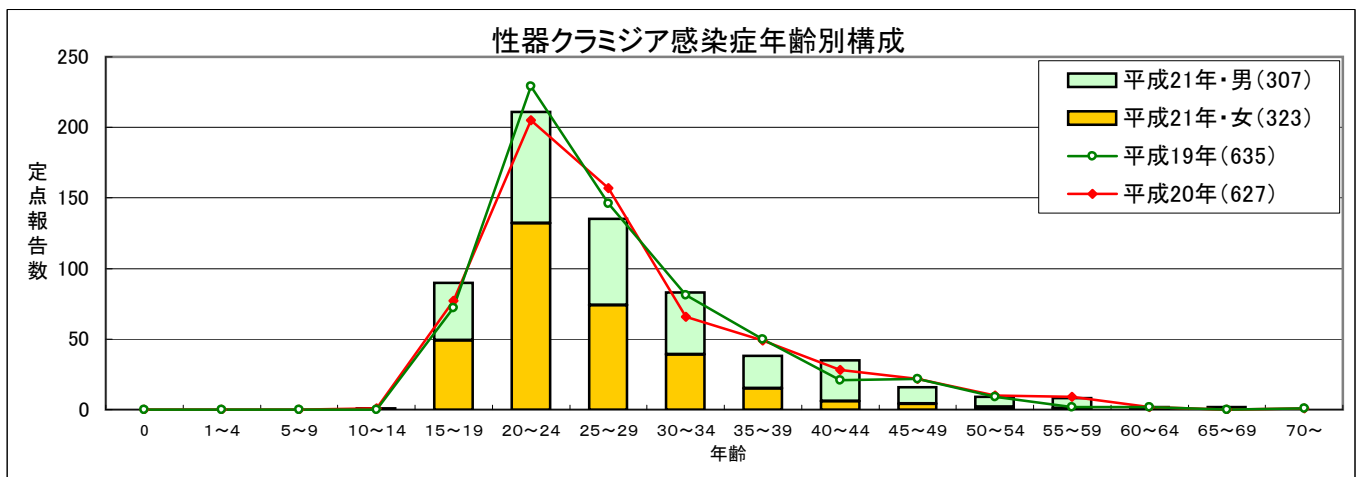
(16STD定点)

定点からの年間報告数は630例(男307例、女323例)あり、20～24歳の報告が多かった。  
また、年齢構成の全国との比較では、20～24歳の感染者の占める割合が高かった。

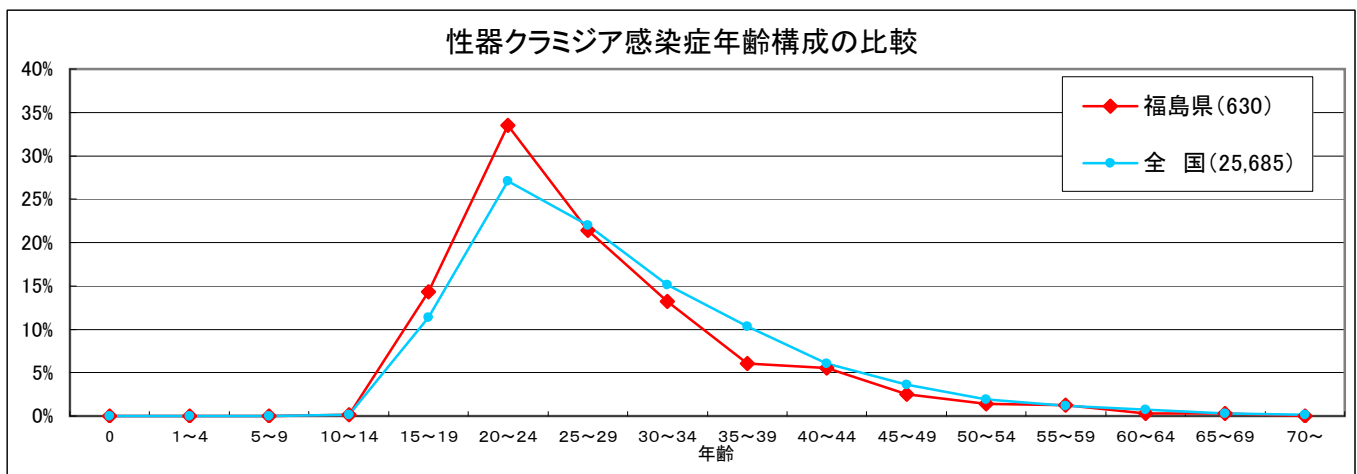


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成21年・男(307)	22	22	26	28	22	29	22	24	28	25	32	27	307
平成21年・女(323)	30	20	27	35	39	18	32	34	19	24	21	24	323
平成21年(630)	52	42	53	63	61	47	54	58	47	49	53	51	630
平成20年(627)	50	49	37	31	61	76	64	62	50	55	42	50	627
平成19年(635)	60	49	53	47	66	53	71	43	58	42	44	49	635

平成19～21年 県内の年齢別構成

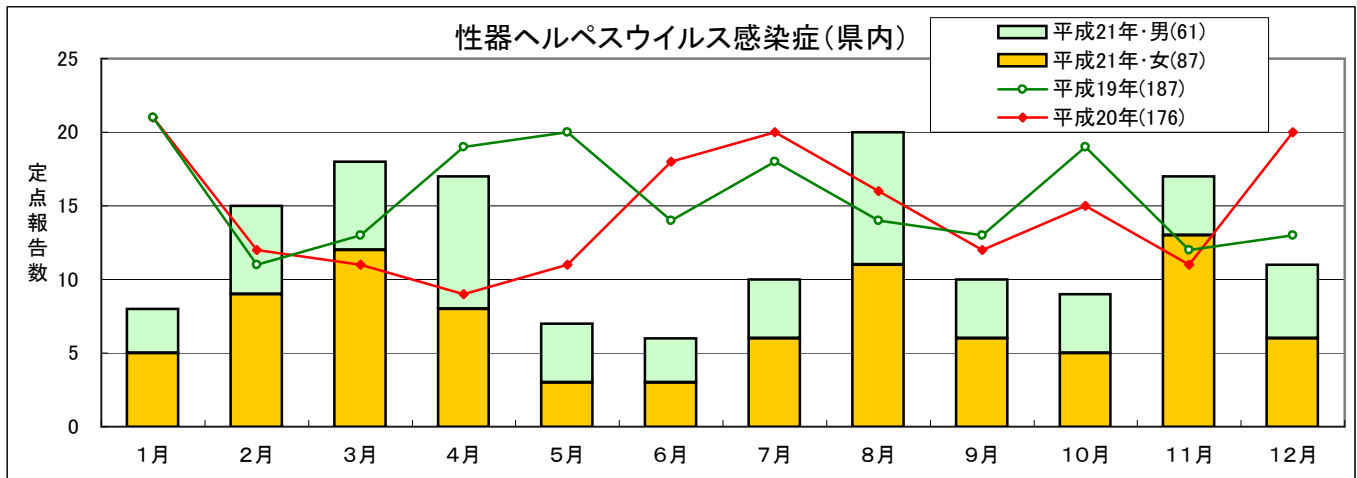


平成21年 年齢構成の比較



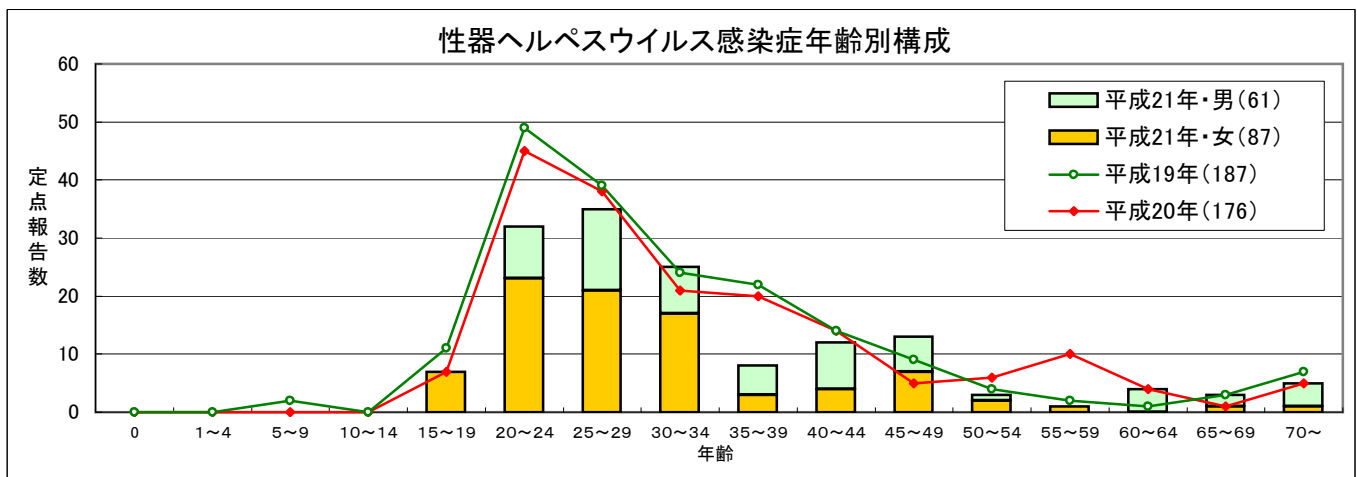
## (90) 性器ヘルペスウイルス感染症 (16STD定点)

定点からの年間報告数は148例(男61例、女87例)あり、20～34歳の報告が多かった。  
また、年齢構成の全国との比較では、20～34歳の感染者の占める割合が高かった。

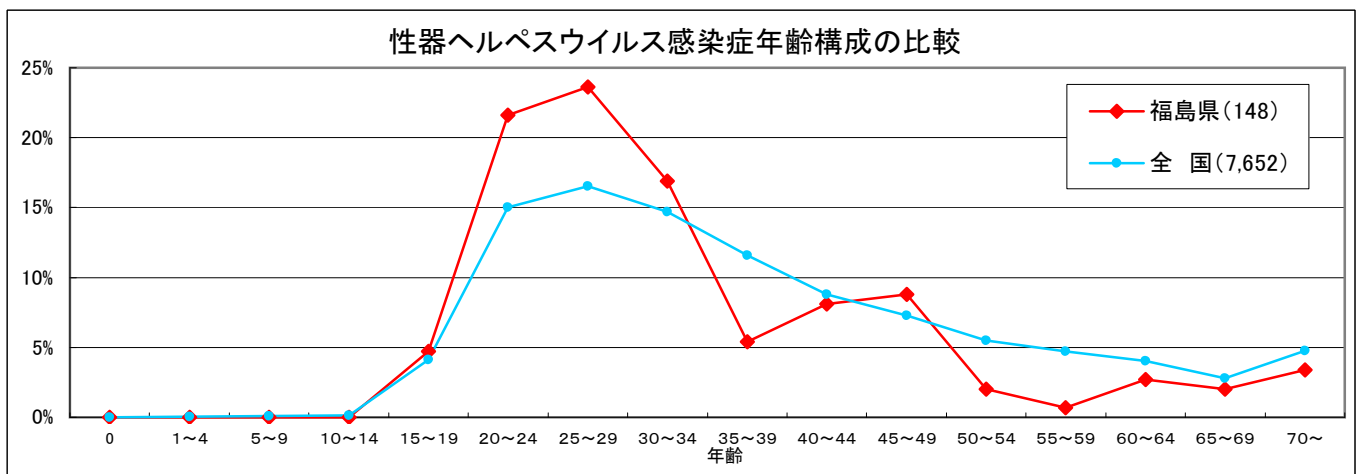


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成21年・男(61)	3	6	6	9	4	3	4	9	4	4	4	5	61
平成21年・女(87)	5	9	12	8	3	3	6	11	6	5	13	6	87
平成21年(148)	8	15	18	17	7	6	10	20	10	9	17	11	148
平成20年(176)	21	12	11	9	11	18	20	16	12	15	11	20	176
平成19年(187)	21	11	13	19	20	14	18	14	13	19	12	13	187

平成19～21年 県内の年齢別構成



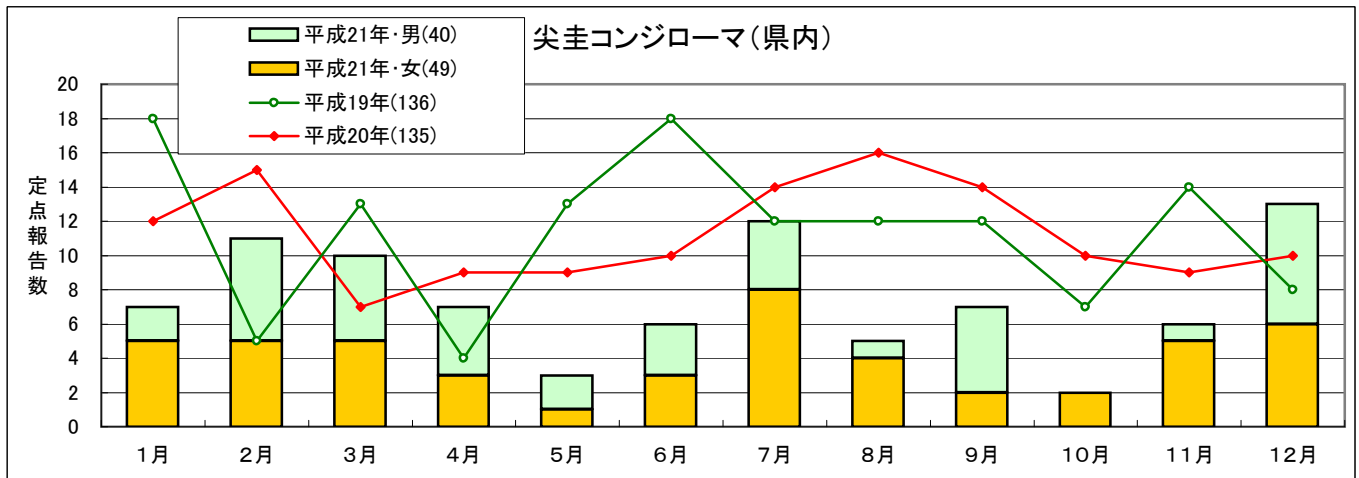
平成21年 年齢構成の比較



## (91)尖圭コンジローマ

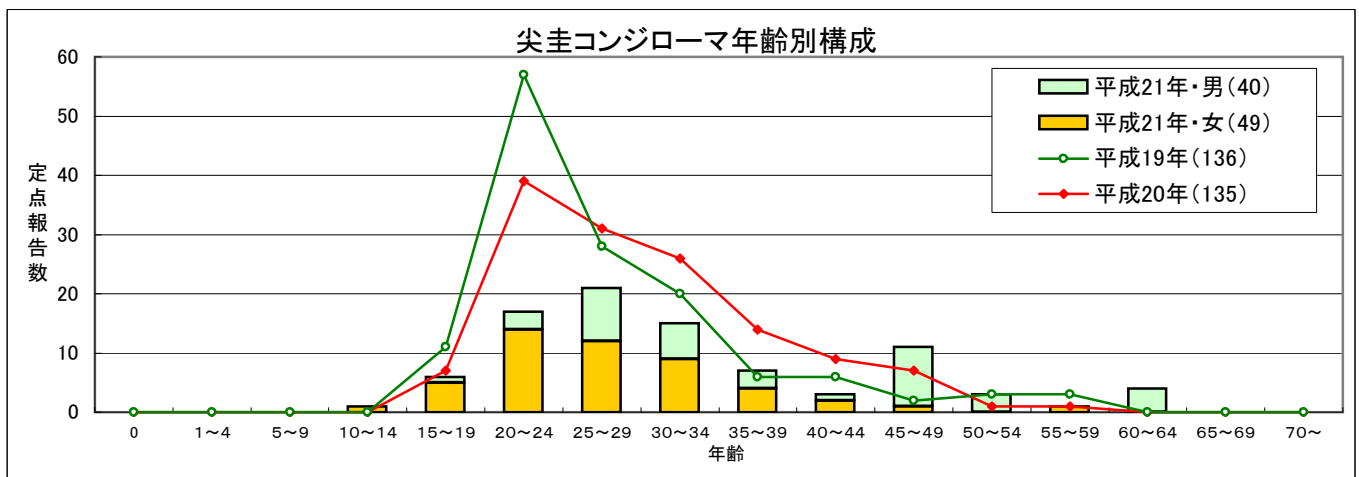
(16STD定点)

定点からの年間報告数は89例(男40例、女49例)あり、20～34歳の報告が多かった。  
また、年齢構成の全国との比較では、45～49歳の感染者の占める割合が高かった。

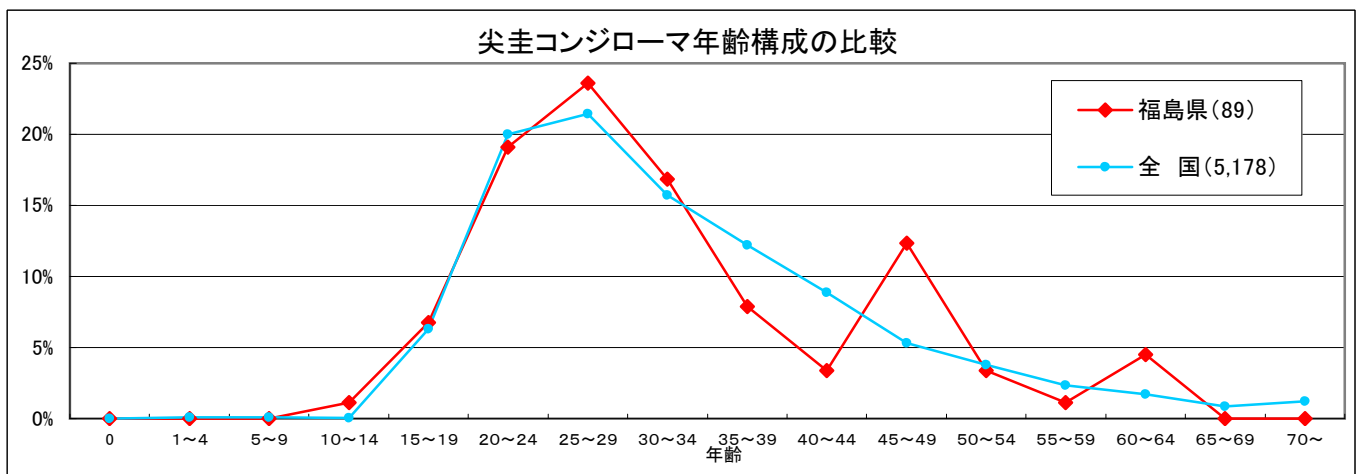


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成21年・男(40)	2	6	5	4	2	3	4	1	5	0	1	7	40
平成21年・女(49)	5	5	5	3	1	3	8	4	2	2	5	6	49
平成21年(89)	7	11	10	7	3	6	12	5	7	2	6	13	89
平成20年(135)	12	15	7	9	9	10	14	16	14	10	9	10	135
平成19年(136)	18	5	13	4	13	18	12	12	12	7	14	8	136

### 平成19～21年 県内の年齢別構成



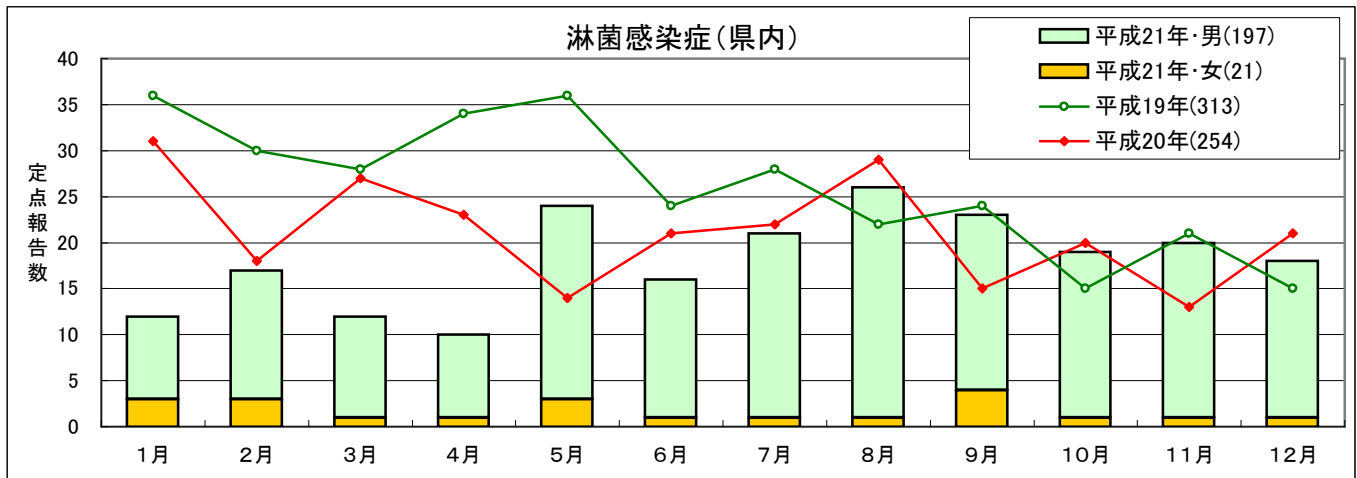
### 平成21年 年齢構成の比較



## (92) 淋菌感染症

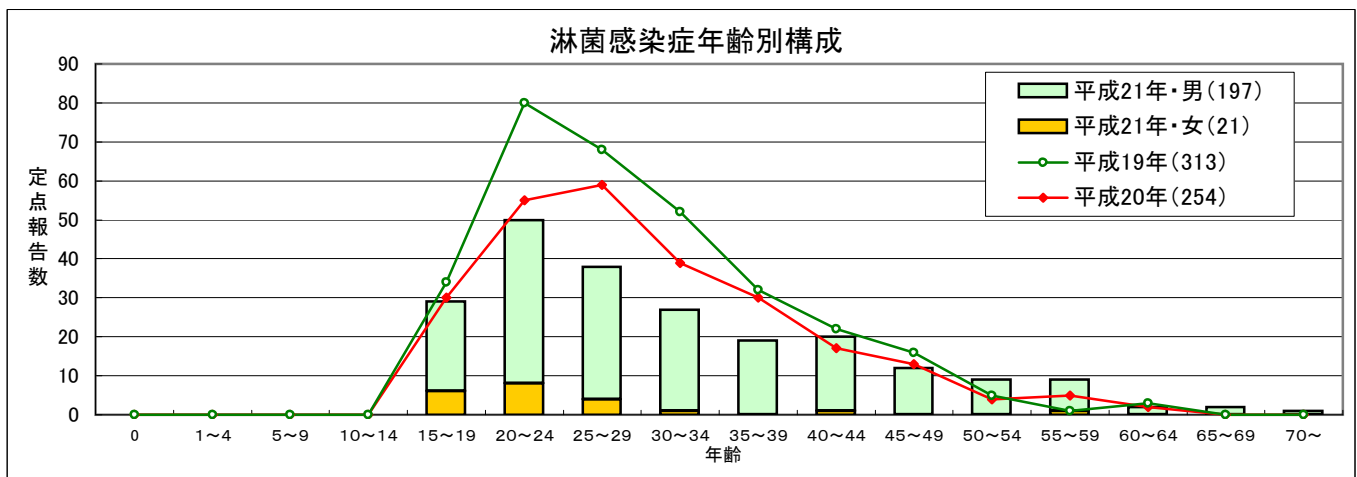
(16STD定点)

定点からの年間報告数は218例(男197例、女21例)あり、20～24歳の報告が多かった。  
また、年齢構成の全国との比較では、15～19歳の感染者の占める割合が高かった。

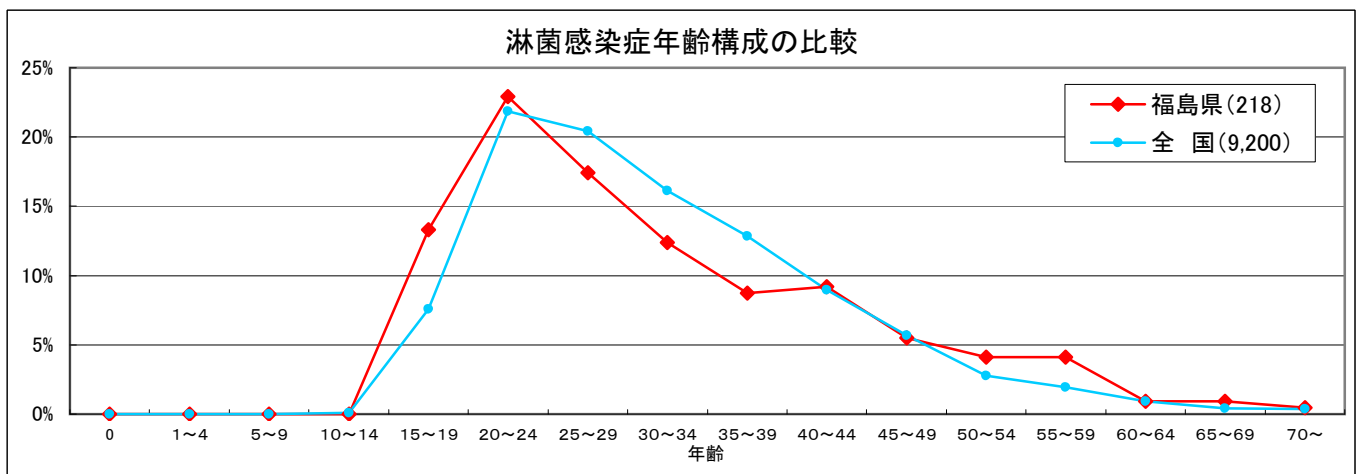


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成21年・男(197)	9	14	11	9	21	15	20	25	19	18	19	17	197
平成21年・女(21)	3	3	1	1	3	1	1	1	4	1	1	1	21
平成21年(218)	12	17	12	10	24	16	21	26	23	19	20	18	218
平成20年(254)	31	18	27	23	14	21	22	29	15	20	13	21	254
平成19年(313)	36	30	28	34	36	24	28	22	24	15	21	15	313

平成19～21年 県内の年齢別構成



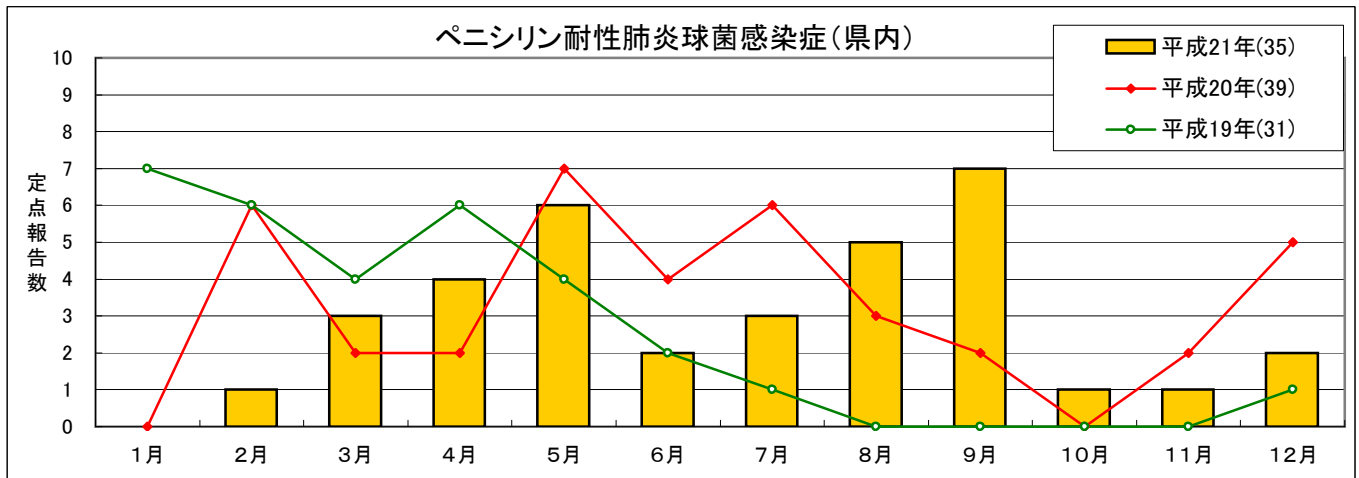
平成21年 年齢構成の比較



### (95) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

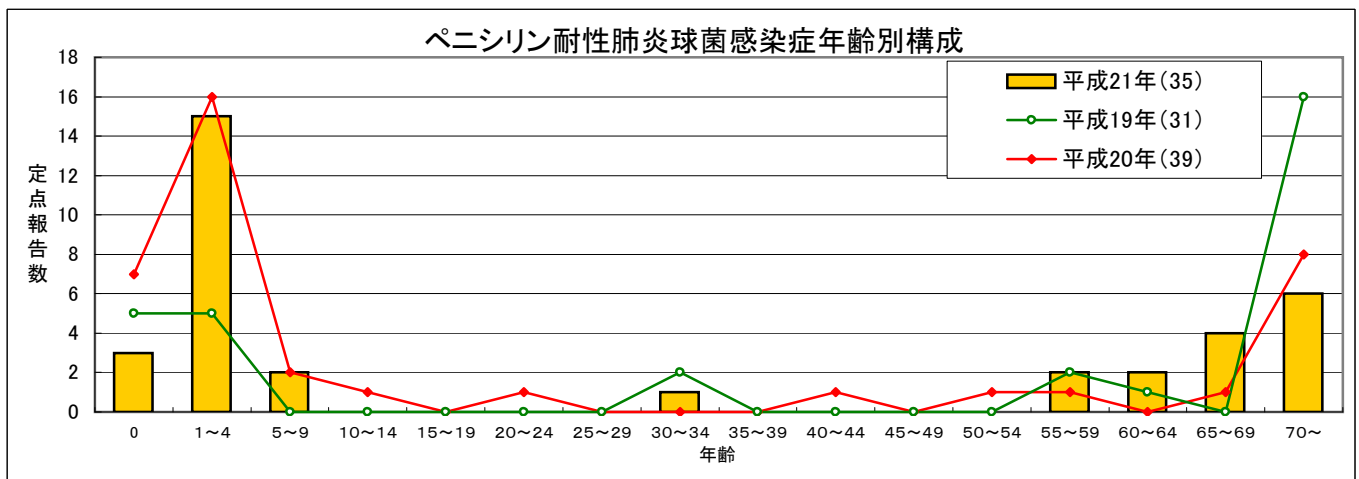
(7基幹定点)

定点からの年間報告数は35例あり、1～4歳の報告が多かった。

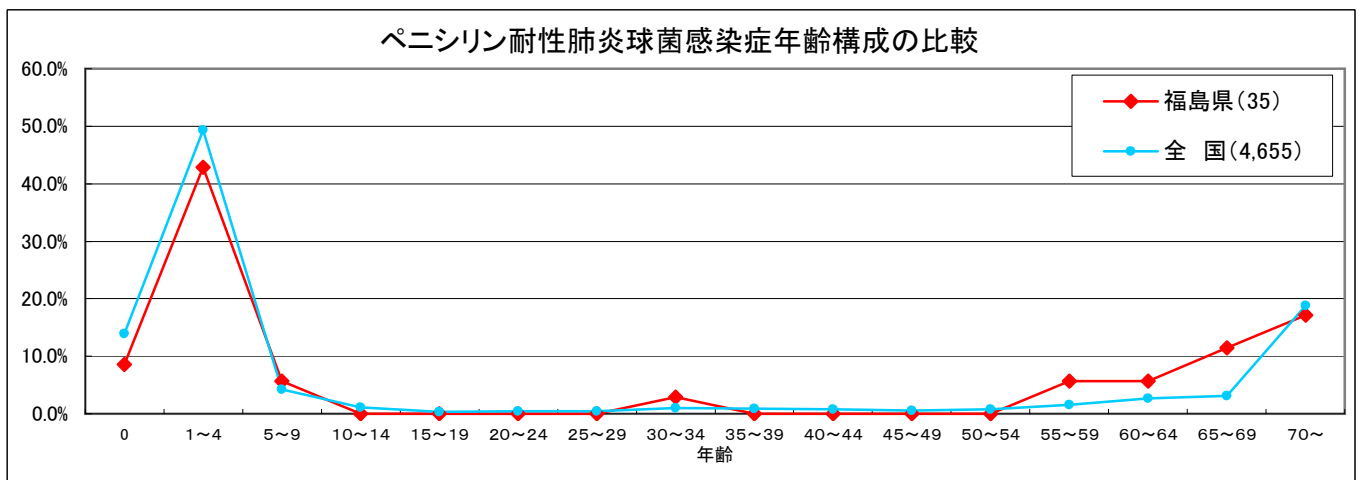


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成21年(35)	0	1	3	4	6	2	3	5	7	1	1	2	35
平成20年(39)	0	6	2	2	7	4	6	3	2	0	2	5	39
平成19年(31)	7	6	4	6	4	2	1	0	0	0	0	1	31

#### 平成19～21年 県内の年齢別構成

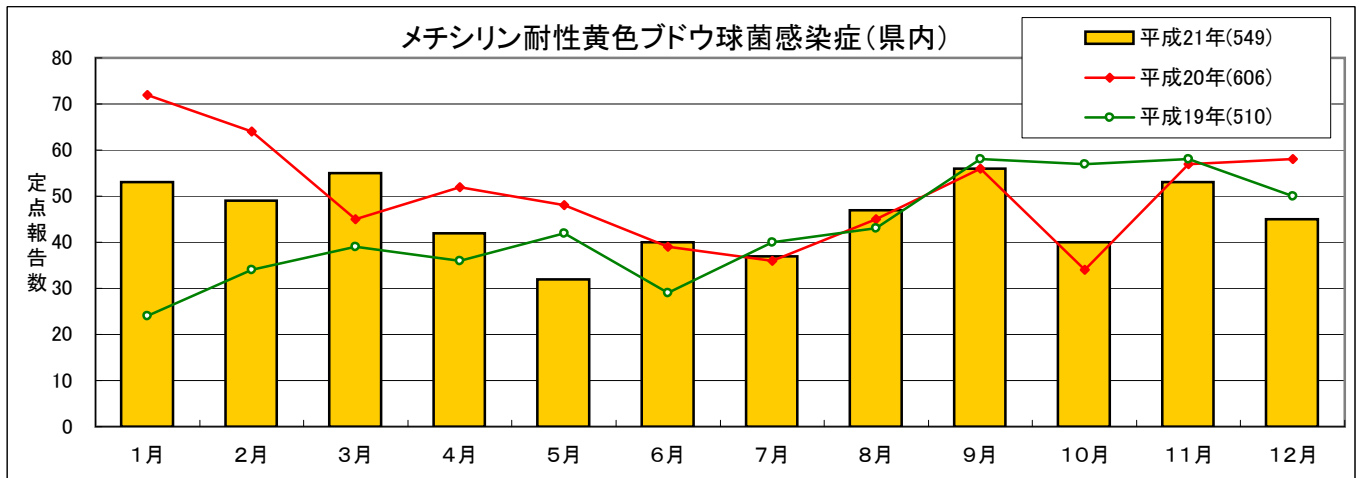


#### 平成21年 年齢構成の比較



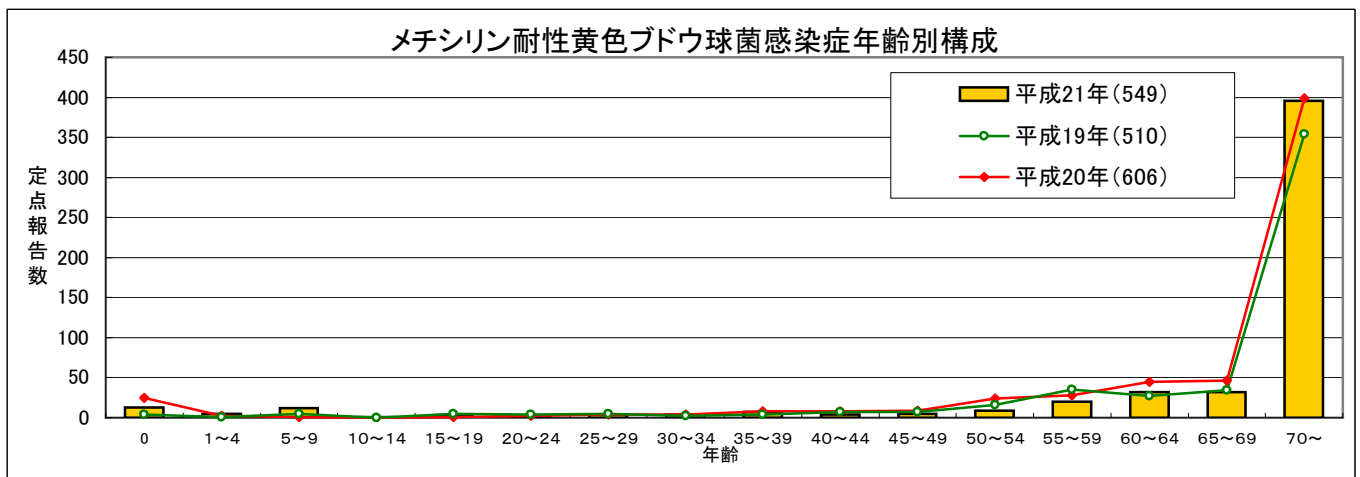
## (98)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は549例あり、70歳以上の報告が多かった。

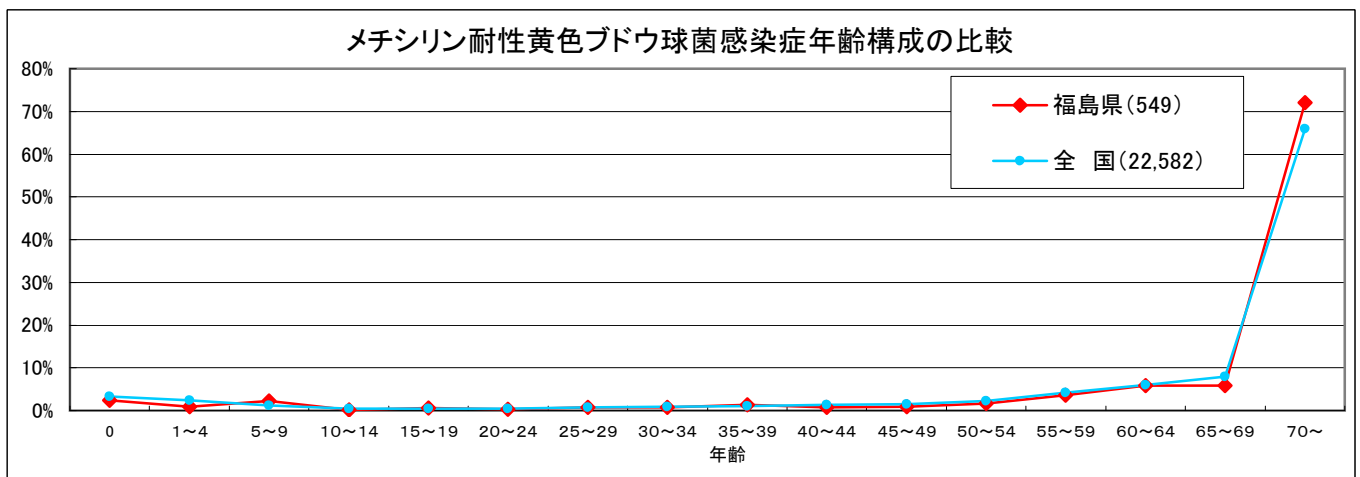


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成21年(549)	53	49	55	42	32	40	37	47	56	40	53	45	549
平成20年(606)	72	64	45	52	48	39	36	45	56	34	57	58	606
平成19年(510)	24	34	39	36	42	29	40	43	58	57	58	50	510

### 平成19～21年 県内の年齢別構成



### 平成21年 年齢構成の比較

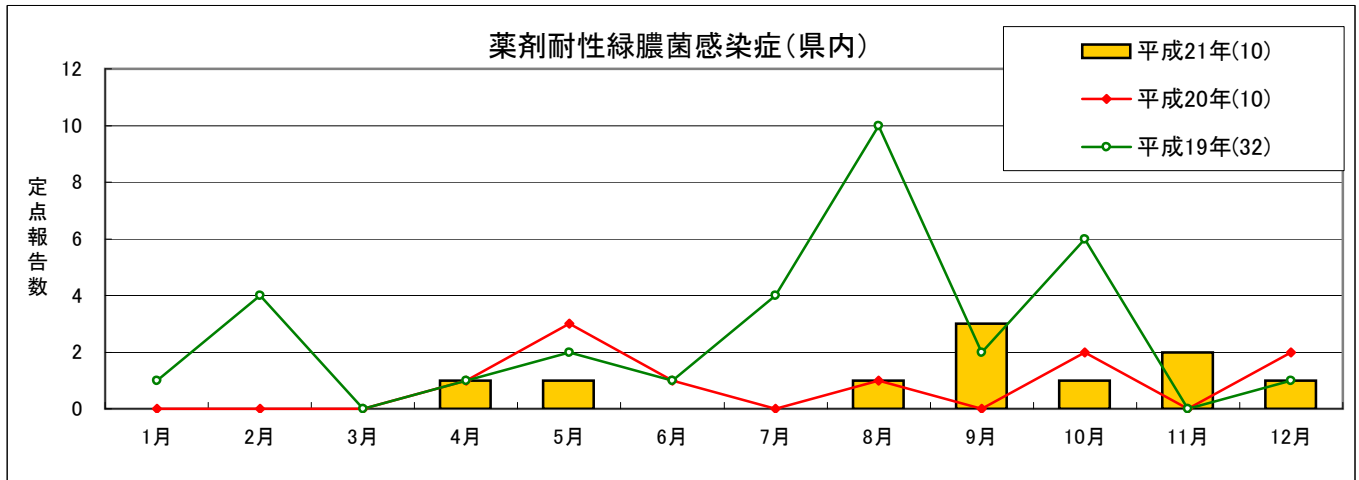




### (99)薬剤耐性緑膿菌感染症

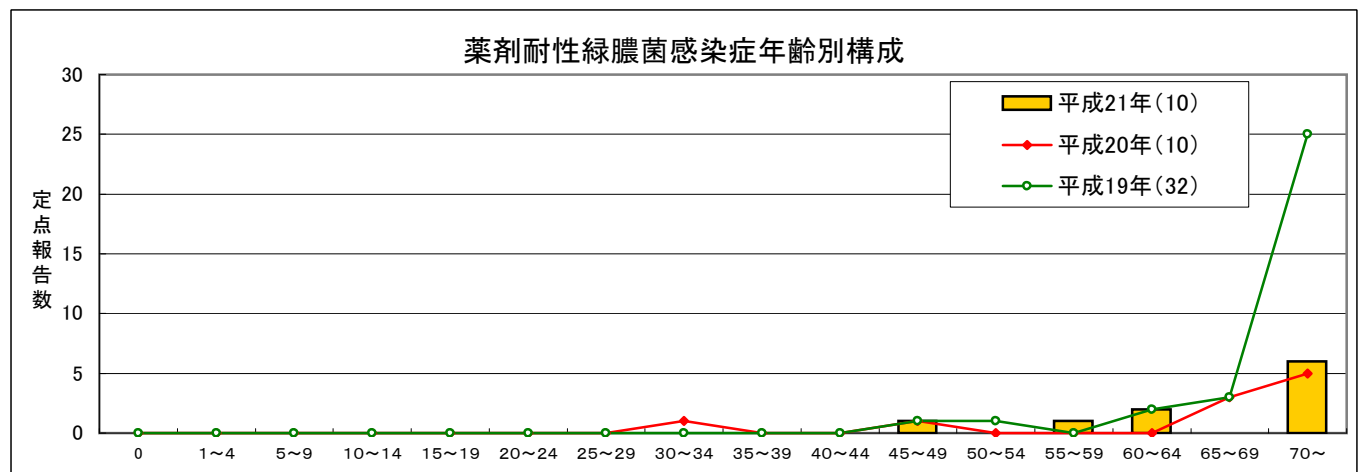
(7基幹定点)

定点からの年間報告数は10例あり、70歳以上の報告が多かった。

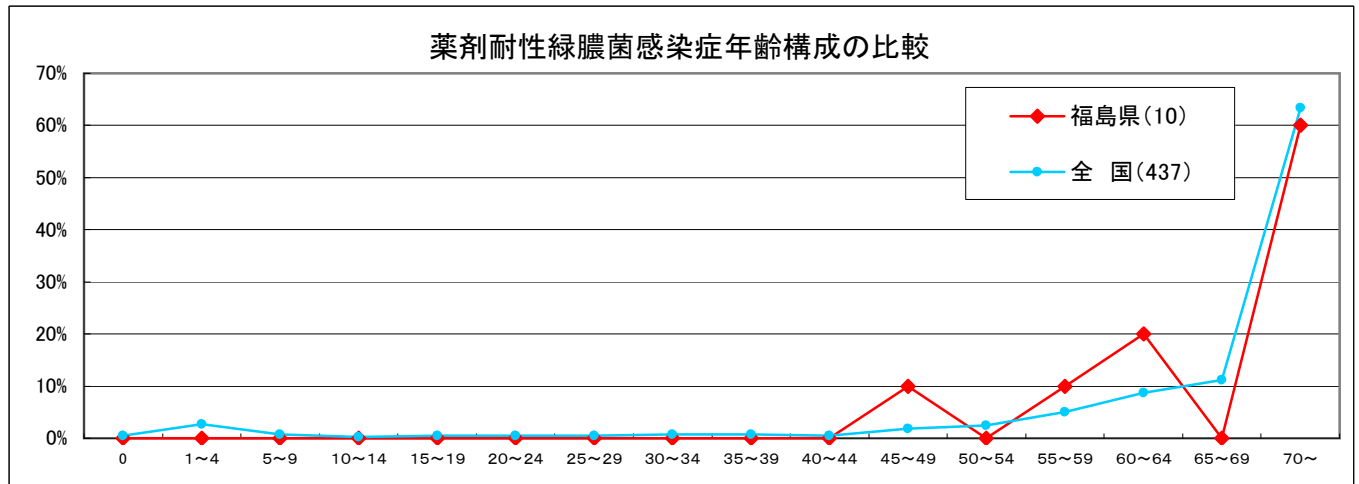


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成21年(10)	0	0	0	1	1	0	0	1	3	1	2	1	10
平成20年(10)	0	0	0	1	3	1	0	1	0	2	0	2	10
平成19年(32)	1	4	0	1	2	1	4	10	2	6	0	1	32

#### 平成19～21年 県内の年齢別構成



#### 平成21年 年齢構成の比較



( 4 ) 法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症結果報告

法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症対象疾患 ( 定点把握 )

- (102) 摂氏 38 度以上の発熱及び呼吸器症状〔明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く〕
- (103) 発熱及び発しん又は水疱〔ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症及び五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く〕

法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症対象疾患 ( 定点把握 )  
患者地域別定点機関数

	疑 似 症 定 点
県 北	30
郡山市	20
県 中	13
県 南	9
会 津	16
南会津	4
相 双	11
いわき市	21
計	124





## 検 査 情 報

- ( 1 ) 2009 年感染症発生動向調査事業報告 ( ウイルス )
- ( 2 ) 2009 年感染症発生動向調査事業報告 ( 細菌 )
- ( 3 ) 2008/09 , 2009/10 シーズンのインフルエンザの流行状況について

## 2009 年感染症発生動向調査事業報告（ウイルス）

五十嵐郁美 北川和寛 門馬直太 柏原尚子 平澤恭子 廣瀬昌子<sup>1)</sup> 三川正秀<sup>2)</sup> 大竹俊秀  
微生物課，：試験検査課<sup>1)</sup>，：前衛生研究所<sup>2)</sup>

### はじめに

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき，県内の感染症発生の治療，予防に役立つ情報の提供を目的として，対象病原体について感染症発生動向調査を行っている．本報では 2009 年のウイルス検索結果について報告する．

### 材 料

2009 年 1 月から 12 月までの間に，県内の基幹定点 7 機関，インフルエンザ定点 8 機関，小児科定点 5 機関，眼科定点 1 機関において採取された 1,255 症例由来の咽頭拭い液，糞便，髄液，眼瞼拭い液等，計 1,440 件を検体とした．

### 方 法

RD-18S，HEp-2，Vero，LLCMK2，MDCK，B95a の 6 種類の細胞を用いてウイルス分離を実施した．分離ウイルスの同定には，抗血清を用いた中和試験を基本とし，補助的にダイレクトシークエンス法を行った．また，インフルエンザウイルスをはじめとしたオルソミクスウイルスについては赤血球凝集抑制試験と赤血球吸着試験，単純ヘルペスウイルスには蛍光抗体法を用い，その他のヘルペスウイルスは PCR 法及び制限酵素等を用いた．検体が糞便の場合には，ラテックス凝集反応

によるアデノ・ロタウイルス，さらに RT-PCR 法によるノロウイルス，サポウイルス，アイチウイルス，アストロウイルスの検出も併せて行った．

### 結果及び考察

#### 1 地区別ごとの検体症例数

各地区からの月別の検体症例数を表 1 に示した．また，居住地域別症例数を表 2 に示す．例年同様，相双と郡山地区からの検体が多か

表 2 居住地域別症例数

地域名	症例数	地域名	症例数
福島市	133	会津若松市	98
本宮市	19	喜多方市	7
二本松市	6	耶麻郡	8
伊達市	7	河沼郡	2
伊達郡	4	大沼郡	4
安達郡	5	南会津郡	5
須賀川市	29	相馬市	277
田村市	15	南相馬市	37
田村郡	12	相馬郡	60
石川郡	18	双葉郡	18
岩瀬郡	8	郡山市	304
白河市	25	いわき市	84
西白河郡	16	県外	53
東白川郡	1		
		計	1,255

表 1 月別地区別検体症例数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
県北	20	20	10	4	7	8	5	3	7	24	34	10	152
県中	13	4	2				1	15	1	4	3		43
県南	3		3	1	1	2	1	3	1	8	9	6	38
会津	7	13	16	3	3	1	7	17	5	24	19	9	124
南会津										2			2
相双	67	68	45	28	39	20	24	35	29	22	28	30	435
郡山市	28	23	34	27	16	15	19	44	34	51	41	46	378
いわき市	5	3	4	4	4	10	11	6	5	10	10	11	83
計	143	131	114	67	70	56	68	123	82	145	144	112	1,255

った．その他の地域での検体症例数は新型インフルエンザウイルスの流行により昨年より増加した．

## 2 検体の種類別検出状況

ウイルスの検体種類別検出状況を表 3 に示した．1,255 症例 1,440 件のうち，694 症例 701 件の検体から 705 株（表 4）のウイルスが検出され，検出率は 48.7 %であった．

検出された検体の種類ごとの内訳は，咽頭拭い液 624 件，糞便 68 件，髄液 5 件，眼瞼 1 件，その他 3 件であった．種類ごとの検出率は昨年と同じか，高めであった．特に咽頭拭い液はインフルエンザウイルス分離の増加により昨年の 1.7 倍の検出率となり，全体も 1.5 倍の検出率となった．

表 3 検体種類別検出検体数

	咽頭	糞便	髄液	眼瞼	その他	合計
受付検体数	1,097	219	105	7	12	1,440
検出検体数	624	68	5	1	3	701
検出率(%)	56.9	31.1	4.8	14.3	25.0	48.7

## 3 月別検出状況

月別検体症例数，検出率を図 1 に示した．

ウイルス検出症例数は 11 月が 103 症例と最も多く，うちインフルエンザウイルス A (H1pdm)型が 98 症例とそのほとんどを占めていた．受付症例数は 10 月が 145 症例と最も多く，新型インフルエンザ流行によるものであった（表 4）．

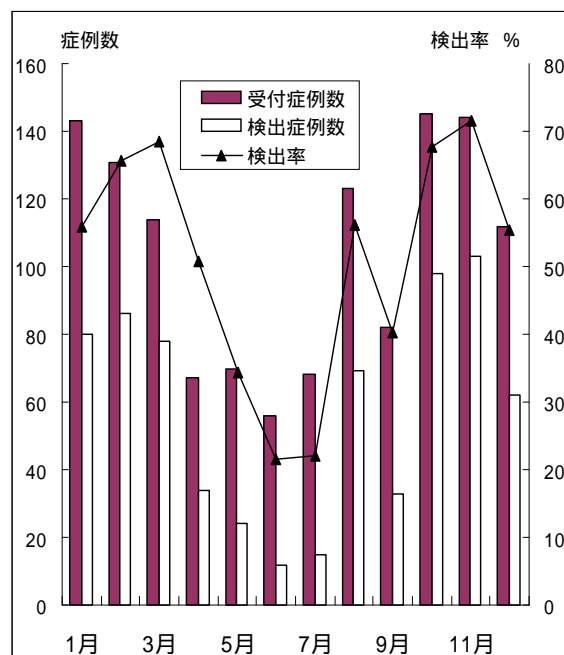


図 1 月別検体症例数と検出率

## 4 ウイルス別検出状況

月別ウイルス検出状況を表 4 に示した．また，複数ウイルスが検出された 4 症例を表 5 に示す．

### 1) アデノウイルス

年間を通じて 27 症例 31 株が検出された．アデノウイルス 2 型が本年も昨年同様最も多く，14 症例 16 株検出された．次いで，1 型が 6 症例 7 株，5 型が 2 症例 3 株，3 型と 6 型がそれぞれ 1 症例 1 株ずつ検出された．また，型別が不能であった 3 症例 3 株は 2 症例 2 株は遺伝子検索によりアデノウイルスと同定され，1 症例 1 株はアデノドライにより検出された．

表 5 複数ウイルスが検出された症例

	分離ウイルス	採取月日	診断名	年齢	性別	住所	検査材料	発熱( )
1	Influenza A(H1) Parainfluenza 2	H21.1.19	インフルエンザ A 気管支炎	3歳	男	相馬市	咽頭ぬぐい液	38.4
2	Rota A Echo 18	H21.4.25	感染性胃腸炎	8歳	男	郡山市	糞便	36.2
3	Adeno5 Sapo G	H21.5.1	扁桃炎 胃腸炎	1歳	男	宮城県	糞便	39.0
4	EBV Adeno 2	H21.5.15	扁桃炎	2歳	男	相馬郡	咽頭ぬぐい液	38.9

表4 月別ウイルス検出症例数

症例数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
Adeno 1		1 (1)			2 (2)	1 (1)		1 (2)			1 (1)		6 (7)
Adeno 2	1 (1)	1 (2)	3 (3)	2 (2)	2 (2)		2 (2)	2 (2)			1 (2)		14 (16)
Adeno 3								1 (1)					1 (1)
Adeno 5				1 (1)	1 (2)								2 (3)
Adeno 6							1 (1)						1 (1)
Adeno sp.	1 (1)										1 (1)	1 (1)	3 (3)
Cox A 9				1 (1)		3 (3)	3 (3)	3 (3)					10 (10)
Cox A 16					1 (1)			2 (2)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	8 (8)
CoxB 3								1 (1)	1 (1)				2 (2)
Echo 6	1 (1)								1 (1)				2 (2)
Echo 9							1 (1)						1 (1)
Echo 11						1 (1)							1 (1)
Echo 13		1 (1)											1 (1)
Echo 18				1 (1)		1 (1)		5 (5)					7 (7)
Echo 30	2 (2)				1 (1)								3 (3)
Entero 71						2 (2)		1 (1)					3 (3)
Parecho1								2 (2)					2 (2)
Polio					1 (1)	3 (4)				1 (1)			5 (6)
Influenza A(H1)	54 (54)	24 (24)	13 (13)										91 (91)
Influenza A(H1pdm)							6 (6)	50 (50)	30 (31)	95 (95)	98 (98)	52 (52)	331 (332)
Influenza A(H3)	6 (6)	5 (6)		12 (12)	4 (4)								27 (28)
Influenza B	2 (2)	44 (44)	54 (54)	12 (12)	5 (5)								117 (117)
Parainfluenza 2	1 (1)												1 (1)
HSV 1							1 (1)					3 (3)	4 (4)
EBV					1 (1)								1 (1)
HHV 6					1 (1)								1 (1)
Reo		2 (2)											2 (2)
Rota A			6 (6)	2 (2)	4 (4)								12 (12)
Noro G	13 (13)	6 (6)	1 (1)	3 (3)	1 (1)					1 (1)	5 (5)		30 (30)
Sapo		1 (1)		1 (1)	2 (2)	1 (1)	1 (1)						6 (6)
Astro		1 (1)	1 (1)					1 (1)					3 (3)
症例数 (株数)	80 (81)	86 (88)	78 (78)	34 (35)	24 (27)	12 (13)	15 (15)	69 (70)	33 (34)	98 (98)	103 (104)	62 (62)	694 (705)
未同定症例数									1	4	14		19
受付検体症例数 検出率	143 55.9	131 65.6	114 68.4	67 50.7	70 34.3	56 21.4	68 22.1	123 56.1	82 40.2	145 67.6	144 71.5	112 55.4	1,255 55.3

同一症例複数ウイルス分離を含む

( )分離株数

2010年2月12日現在



## 2) エンテロウイルス

エンテロウイルスは 45 症例 46 株検出された。

最も多く検出されたのはコクサッキーウイルス A9 型で 10 症例 10 株検出された。4 月から 8 月の採取検体で、多くはいわき地区の発疹症からの検出であった。8 月に郡山地区の髄膜炎疑い 11 歳女児の髄液からも検出された。

コクサッキーウイルス A16 型は 8 症例 8 株検出された。手足口病，上気道炎症例からの検出であった。

同様に手足口病の原因となるエンテロウイルス 71 型は 3 症例 3 株検出された。全て手足口病症例からの検出であった。

エコーウイルス 18 型は 7 症例 7 株検出された。8 月を中心に扁桃炎，胃腸炎症例からの検出であった。

エコーウイルス 6 型は 2 症例 2 株検出された。どちらも RS ウイルス感染症の髄液から検出され、白河地区の 10 歳女児，郡山地区の 1 ヶ月女児からの検出であった。エコーウイルス 6 型は 2003 年以降の検出であった。

エコーウイルス 11 型は 1 症例 1 株検出された。白河地区の新生児感染症，0 ヶ月男児の髄液からの検出であった。

コクサッキー B 群ウイルスは 3 型が 2 症例 2 株検出された。8 月と 9 月に上気道炎及び下気道炎から検出された。

ポリオウイルスは春と秋の集団予防接種時期に 5 症例 6 株検出された。4 症例 5 株はワクチン投与後の検出であり，ワクチン由来と思われる。1 症例 1 株は患者にワクチン投与はなく，ワクチン投与者との接触によると考えられる。この株は国立感染症研究所に送付しポリオウイルスワクチン株と同定された。またこの症例では，ポリオ様症状はみられなかった。

## 3) インフルエンザウイルス

インフルエンザウイルスの昨年末からの検出症例数を図 2 に示す。2008/2009 シーズンは A(H1)型がシーズンはじめに流行した。その後 B 型の流行があり，2 つめのピークが出現した。08 / 09 シーズンの検出数のピークは 2 月で，73 症例から検出された。その

後，7 月に A(H1pdm)型を検出してからは，A(H1pdm)型のみを検出となっている。

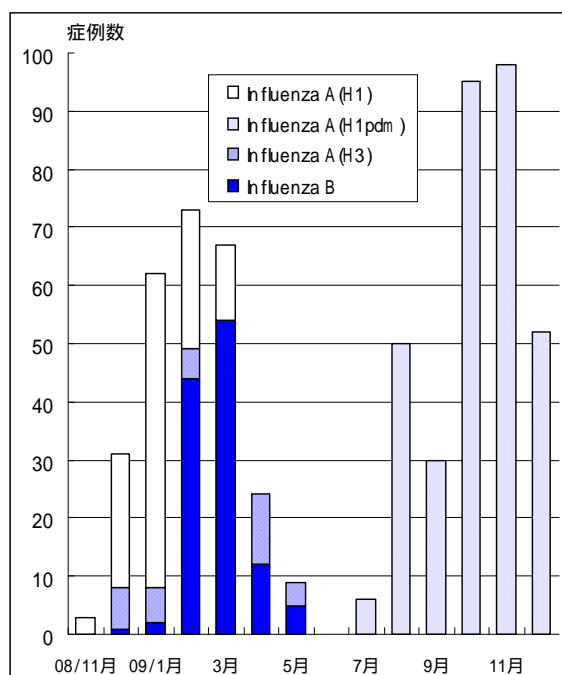


図 2 月別インフルエンザ検出症例数

## 4) ヘルペスウイルス

単純ヘルペスウイルス 1 型が 4 症例 4 株から検出された。それらの診断名は咽頭炎，口内炎，性器ヘルペスであった。

エプスタインバーウイルス(EB ウイルス)は 1 症例 1 株で，相双地区の扁桃炎の 2 歳男児から検出された。この症例からはアデノウイルス 2 型も検出された。

ヒトヘルペスウイルス 6 型は 1 症例 1 株で，郡山地区のけいれん重積，1 歳男児の髄液から検出された。

## 5) ノロウイルス(図 3)

2008/2009 シーズンは 12 月をピークに 5 月まで 72 症例 72 株が検出された。うち 70 症例 70 株が遺伝子型 G であった。

## 6) ロタウイルス(図 3)

3 月～ 5 月にかけて 12 症例 12 株検出された。症例は全て乳幼児であった。

## 7) その他のウイルス

パラインフルエンザウイルスは 1 症例 1 株検出された。インフルエンザ症例で，昨年と同様にインフルエンザウイルス A(H1)型と

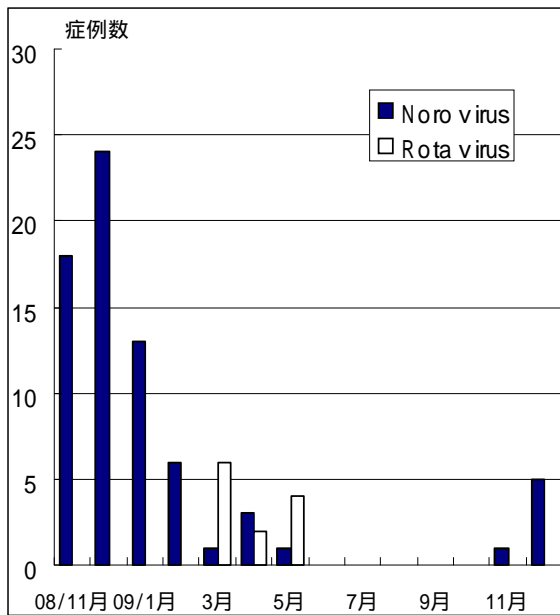


図3 月別ノロ・ロタウイルス検出症例数

同時に検出された。

調査研究の一環として、胃腸炎原因ウイルスであるサポウイルス 6 症例 6 株、アストロウイルス 3 症例 3 株検出した。サポウイルスは G<sub>1</sub>、G<sub>2</sub> とともに 3 症例 3 株であった。今後も引き続き監視を続けていきたい。

## 5 診断名別検出状況

診断名別検出状況を表 6 に示した。

本年搬入された検体ではインフルエンザと診断された症例が最も多く、625 症例で 524 症例からウイルスが検出された。検出率も 83.8 % と最も高かった。検出されたウイルスはすべてインフルエンザウイルスであった。

胃腸炎は 107 症例で 60 症例からウイルスが検出された。検出ウイルスはノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス、エコーウイルスなど様々であるが、ノロウイルスが 30 症例と全体の 50 % 占め、次いでロタウイルスが 20 % であった。

上気道炎は 252 症例で 53 症例からウイルスが検出された。そのうち 23 症例はインフルエンザウイルスが検出され、15 症例はアデノウイルスが検出された。

下気道炎は 72 症例で、20 症例からウイルスが検出された。内訳はアデノウイルス、コクサッキーウイルス、インフルエンザウイル

スなどであった。

手足口病は 21 症例で、10 症例からウイルスが検出された。コクサッキーウイルス A16 型が 6 症例、エンテロウイルス 71 型が 3 症例、コクサッキーウイルス A9 型が 1 症例検出された。全国的にはエンテロウイルス 71 型が多く検出されていたが、本県ではコクサッキーウイルス A16 型がやや多かった。

ヘルパンギーナは 25 症例中 2 症例からウイルスが検出された。検出されたのはポリオウイルス、インフルエンザウイルス A(H1N1) であった。ヘルパンギーナの原因となるウイルスは検出されなかった。

## まとめ

- 1 インフルエンザウイルス A(H1pdm) 型が 327 症例から検出された。
- 2 コクサッキーウイルス A9 型が 4 月から 8 月にかけて流行した。また髄膜炎症例の髄液からも検出された。
- 3 エコーウイルス 6 型は 2 症例 2 株検出された。どちらも RS ウイルス感染症の髄液から検出された。
- 4 サポウイルス、アストロウイルスは 2 月から 8 月にかけて散発ではあるが福島県内各地から検出された。

## 謝 辞

検体採取等本事業にご協力いただいた病原体定点医療機関の諸先生方に深謝いたします。

## 引用文献

- 1) 金成篤子, 慶野昌明, 水澤丈子, 他. 平成 15 年感染症発生動向調査病原体検査結果報告 (ウイルス) 福島県衛生研究所年報 2003 : 55-62
- 2) 五十嵐郁美, 門馬直太, 柏原尚子, 他. 2008 年感染症発生動向調査事業報告 (ウイルス) 福島県衛生研究所年報 2008 : 70-75
- 3) 国立感染症研究所, 病原微生物検出情報月報 2009 年 11 月号, 2008 / 09 シーズンの季節性および新型インフルエンザ分離株の解析 <http://idsc.nih.gov/jp/iasr/30/357/dj3571.html>. 2010/

表6 診断名別ウイルス検出症例数

症例数	上気 道炎	下気 道炎	インフル エンザ	胃腸 炎	髄膜 炎	手足 口病	口内 炎	発疹 症	ヘルパン ギーナ	熱性 痙攣	結膜 炎等	その他	計
Adeno 1	4	1								1			6
Adeno 2	10	2		1						1			14
Adeno 3					1								1
Adeno 5	1			1									2
Adeno 6				1									1
Adeno sp.				2							1		3
Cox A 9	1				1	1	1	6					10
Cox A 16	2					6							8
CoxB 3	1	1											2
Echo 6		2											2
Echo 9	1												1
Echo 11												1	1
Echo 13				1									1
Echo 18	4			3									7
Echo 30	2	1											3
Entero 71						3							3
Parecho1	1											1	2
Polio	2	1							1	1			5
Influenza A(H1)	5	1	84						1				91
Influenza A(H1pdm)	1	3	327										331
Influenza A(H3)	1	3	22	1									27
Influenza B	16	5	91					1		4			117
Parainfluenza			1										1
HSV 1	1						2					1	4
EBV	1												1
HHV 6										1			1
Reo				1						1			2
Rota A				12									12
Noro G				30									30
Sapo				6									6
Astro				3									3
陽性症例数	53	20	524	60	2	10	3	7	2	9	1	3	694
受付検体症例数	252	72	625	107	24	21	7	16	25	55	8	43	1,255
検出率(%)	21.0	27.8	83.8	56.1	8.3	47.6	42.9	43.8	8.0	16.4	12.5	7.0	55.3

同一症例複数ウイルス分離を含む

2010年2月12日現在

2/15.

4) 国立感染症研究所，病原微生物検出情報，ウイルス 2，無菌性髄膜炎由来ウイルス年別 2006 ~ 2010 年 .

<https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data36j.pdf> 2010/2/15.

5) 国立感染症研究所，病原微生物検出情報，エンテロウイルス(1)，月別 2008 年 9 月 ~ 2010 年 2 月 .

<https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data57j.pdf> 2010/2/15.

6) 国立感染症研究所，病原微生物検出情報，エンテロウイルス，手足口病患者から分離・検出されたウイルス、2006 ~ 2010 年 .

<https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data37j.pdf>

2009 年感染症発生動向調査事業報告（細菌）

小黒祐子 菅野奈美 渡邊奈々子 須釜久美子 大竹俊秀  
微生物課

はじめに

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、県内の感染症発生の治療、予防に役立つ情報の提供を目的として、対象病原体について感染症発生動向調査を行っている。本報では 2009 年の細菌検索結果について報告する。

材 料

2009 年 1 月から 12 月までの間に、県内の 6 定点医療機関において採取された検体 411 件を対象とした。検体の内訳を表 1 に示す。咽頭・扁桃拭い液 123 件、後鼻腔拭い液 230 件、糞便・直腸拭い液 35 件、髄液 14 件であり、菌株による搬入は 262 件であった。

方 法

1 細菌分離

A 群溶血性レンサ球菌（以下、“A 群溶レン菌”とする）、細菌性髄膜炎起因菌、百日咳菌、感染性胃腸炎起因菌等を対象とし、厚生省監修「微生物検査必携・第 3 版」に従い検索した。

2 薬剤耐性遺伝子検出、薬剤感受性試験

肺炎球菌、インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子の検出および薬剤感受性試験は既報<sup>1)</sup>の方法により実施、判定した。なお、薬剤感受性試験は公立相馬総合病院検査科で実施した。

結 果

1 患者居住地別症例数

患者居住地別の症例数では、全検体 411 件のうち、郡山市と相馬市で 317 件、77.1 % を占め、地域に偏りが認められた（表 2）。

表 2 居住地域別症

地域名	症例数	地域名	症例数
福島市	1	会津若松市	5
本宮市	5	喜多方市	1
須賀川市	1	相馬市	170
田村市	2	南相馬市	17
田村郡	6	相馬郡	31
石川郡	5	双葉郡	4
岩瀬郡	1	郡山市	147
白河市	1	いわき市	1
西白河郡	1	県 外	12
		計	411

表 1 月別・検査材料別検体数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
咽頭・扁桃拭い液	28	22	10	14	19	14	6	3	6	1			123
スワブ(再掲)	(28)	(22)	(10)	(14)	(19)	(14)	(6)	(3)	(6)	(1)			(123)
平板(再掲)													
菌株(再掲)													
後鼻腔拭い液	23	23	15	23	28	22	17	11	10	8	16	34	230
スワブ(再掲)													
菌株(再掲)	(23)	(23)	(15)	(23)	(28)	(22)	(17)	(11)	(10)	(8)	(16)	(34)	(230)
糞便・直腸拭い液	10	2	4	2	2		6	1	1	1	3	3	35
キャリア(再掲)	(8)	(2)		(2)	(1)		(5)	(1)	(1)	(1)	(2)	(3)	(26)
菌株(再掲)	(2)		(4)		(1)		(1)				(1)		(9)
髄液		1		1	2	3	1	2		2	2		14
髄液(再掲)													
菌株(再掲)		(1)		(1)	(2)	(3)	(1)	(2)		(2)	(2)		(14)
その他	1			1	3	1			3				9
キャリア等(再掲)													
菌株(再掲)	(1)			(1)	(3)	(1)			(3)				(9)
					血液1				血液1				
				結膜1	血液1	尿2	血液1			血液1			
										尿1			
										喀痰1			
計	62	48	29	41	54	40	30	17	20	12	21	37	411

表3 月別・検査材料別分離率

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
咽頭・後鼻腔拭い液 スwab	28	22	10	14	19	14	6	3	4	1	0	0	121
分離数	23	21	8	13	18	13	4	1	2	0	0	0	103
分離率(%)	(82.1)	(95.5)	(80.0)	(92.9)	(94.7)	(92.9)	(66.7)	(33.3)	(50.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(85.1)
糞便・直腸拭い液 キャブア	10	2	0	0	1	0	5	1	1	1	2	3	26
分離数	3	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	2	8
分離率(%)	(30.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(20.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	(50.0)	(66.7)	(30.8)

## 2 検査材料別分離率

輸送培地で搬入した検体について、細菌分離率を表3に示す。咽頭拭い液は121件中103件、85.1%、糞便・直腸拭い液は26件中8件、30.8%であった。

## 3 細菌分離状況

表4に月別の細菌分離状況を示す。

### 1) 溶血性レンサ球菌

A群溶レン菌は115株分離され、全て上気道拭い液(咽頭・扁桃99株、後鼻腔16株)由来株であった。患者の年齢は3~8歳が78.3%を占め、ピークは6~7歳であった。月別では1月~6月の間に108株、93.9%を検出した。A群溶レン菌の血清型は10種類に型別された。最も多く分離されたのはT-1型39株(33.9%)次いでT-25型25株(21.7%)、T-12型23株(20.0%)、T-B3264型8株(7.0%)、T-3型、T-4型各7株、T-11型、T-13型、T-22型、T-28型各1株、型不明2株(1.7%)であった。他の溶血性レンサ球菌(以下、“溶レン菌”とする)はG群溶レン菌2株、B群、C群溶レン菌各1株分離された。G群溶レン菌1株は血液由来株であった。

### 2) 糞便・直腸拭い液からの腸管系病原菌

腸管系病原菌は14株分離され(表4)、内訳は下痢原性大腸菌8株、*Salmonella* 4株、*Campylobacter jejuni* 2株であった。大腸菌の血清型は5種類で、O1が最も多く4株、次いでO15、O18、O25、O125が各1株であった。いずれの大腸菌にも毒素遺伝子は認められなかった。*Salmonella*の血清型は3種類でEnteritidis 2株、Typhimurium、Schleissheim各1株であった。

### 3) 肺炎球菌、インフルエンザ菌

肺炎球菌は111株分離された。細菌性髄膜

炎患者の髄液由来は3株で、その他は呼吸器感染症患者の上気道(後鼻腔108株)由来であった。患者の年齢は0~3歳が78.3%を占め、ピークは1歳であった。

インフルエンザ菌は108株分離された。細菌性髄膜炎患者の髄液由来が5株で、他は呼吸器感染症患者の上気道(後鼻腔102株、咽頭1株)由来であった。患者の年齢は、0~3歳が82.4%を占め、ピークは1歳であった。

インフルエンザ菌の血清型は、型不明が最も多く86株(79.6%)、次いでb型16株(14.8%)、d型4株(4.7%)、a型、c型各1株(1.0%)であった。b型別された16株の中で血清型別法で型別できなかった2株はPCR法によって型別された。髄液由来株はすべてb型であった。

### 4) 上気道拭い液からの百日咳菌

百日咳疑い患者の上気道拭い液2件についてPCR法、LAMP法、菌の分離培養を試みた。その内1件はPCR法、LAMP法で陽性となり、培養で百日咳菌が分離された。

### 5) 髄液からの検出菌

前述のインフルエンザ菌、肺炎球菌以外に*E. coli* 3株、*Listeria monocytogenes* 3株が分離された。*Listeria monocytogenes*の血清型は4b型1株、1b型2株であった。

### 6) その他の検出菌

血液から、*Streptococcus bovis*、*Arcanobacterium bernardiae*、*Clostridium perfringens*が各1株分離された。尿からは*Arcanobacterium bernardiae*、*Salmonella* 7:d:w、*Streptococcus bovis*が各1株分離された。結膜拭い液由来からは*mecA*陽性の*Staphylococcus aureus*、喀痰からは*Corynebacterium pseudodiphthericum*が各1株分離された。この中で、*Streptococcus bovis*と*Arcanobacterium bernardiae*は同一患者の血

表4 月別細菌分離状況 (2009年1月~12月)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
A群溶レン菌	T-1	10		2	6	8	7	3		2			1	39
A群溶レン菌	T-3		2	2	1	2								7
A群溶レン菌	T-4	1	1	2	2	1								7
A群溶レン菌	T-11								1					1
A群溶レン菌	T-12	9	10	1	1	1	1							23
A群溶レン菌	T-13		1											1
A群溶レン菌	T-22					1								1
A群溶レン菌	T-25	5	8	3	2	4	3							25
A群溶レン菌	T-28	1												1
A群溶レン菌	T-B3264				2	2	4							8
A群溶レン菌	T型不明		1		1									2
B群溶レン菌								1						1
C群溶レン菌					1									1
G群溶レン菌			1				1							2
百日咳菌					1									1
<i>E.coli</i>							1							1
<i>E.coli</i> O1		3									1			4
<i>E.coli</i> O15								1						1
<i>E.coli</i> O18		1												1
<i>E.coli</i> O25												1		1
<i>E.coli</i> O74											1			1
<i>E.coli</i> O125		1							1					2
<i>S. Enteritidis</i>				1				1						2
<i>S. Typhimurium</i>						1								1
<i>S. Schleissheim</i>												1		1
<i>Salmonella</i> sp	亜種 7:d:w					1								1
<i>C. jejuni</i>													2	2
<i>S. aureus</i>	<i>mecA+</i>	1												1
<i>C. pseudodiphtheriticum</i>										1				1
<i>L. monocytogenes</i>							2					1		3
<i>A. bernardiae</i>						2								2
<i>C. perfringens</i>					1									1
<i>Streptococcus</i> 属														
<i>Streptococcus bovis</i>										2				2
<i>S. pneumoniae</i>	PSPP	2	2			1	2			1		2		10
	PISP	2	4	2	5	6	1	5	6	2	3	4	5	45
	PRSP	6	4	1	8	4	7	6	2	1	3	4	10	56
<i>H. influenzae</i>	BLNAS	2	1	1		4			1	2		3	3	17
	軽度BLNAR		1	2									1	4
	BLNAR	6	8	5	5	11	10	7	3	4	3	4	13	79
	BLPAR	2	1	2	2								1	8
計		52	45	24	38	49	39	24	14	15	11	20	36	367

液と尿から分離された *Arcanobacterium bernardiae* は、シーケンスによって菌種を同定した。

#### 4 肺炎球菌、インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

1) 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検出結果  
 薬剤耐性遺伝子の検出結果と Clinical and

Laboratory Standards Institute (CLSI) による薬剤感受性判定結果を表5に示す。

遺伝子検査の結果、ペニシリン結合蛋白をコードする *pbp* の3種類の遺伝子の内、何れかに変異が認められた株は111株中101株(90.9%)であった。その内訳は *pbp2x* 変異17株、*pbp1a+2x* 変異8株、*pbp1a+2b* 変異8株、*pbp2x+2b* 変異12株、*pbp1a+2x+2b* 変異56

株である。これらを遺伝子変異の有無によって分類すると、*pbp* 変異なしのペニシリン感受性肺炎球菌（以下“PSSP”とする）10株（9.0%）、*pbp* 変異 1 から 2 種類のペニシリン中等度耐性肺炎球菌（以下“PISP”とする）45株（40.5%）、*pbp* 変異 3 種類全てのペニシリン耐性肺炎球菌（以下“PRSP”とする）56株（50.5%）である。なお、髄膜炎患者の髄液由来株は 遺伝子に変異のない PSSP、*pbp1a+2x* 変異の PISP、*pbp1a+2x+2b* 変異の PRSP 各 1 株であった。

一方、CLSI による薬剤感受性試験では、PSSP33 株（29.7%）、PISP32 株（28.8%）、PRSP43 株（38.7%）に分類された。この PSSP33 株の内 24 株（72.7%）に *pbp* 変異が検出され、PISP32 株の内 12 株（37.5%）に *pbp1a+2x+2b* 変異が検出された。マクロライド耐性遺伝子は 108 株（97.2%）に認められた。その内訳は耐性遺伝子 *mefA* 検出が 60 株、*ermB* 検出が 73 株であり、このうち 22 株は *mefA*、*ermB* 共に検出した。

2) インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出  
薬剤耐性遺伝子の検出結果と CLSI による薬剤感受性判定を表 6 に示す。

遺伝子検査の結果、ペニシリン結合蛋白をコードする遺伝子 *ftsI* の変異部位 *pbp3-1*、*pbp3-2* の何れかに変異を認めた株は 108 株中 93 株（86.1%）であった。TEM 遺伝子別では、TEM 遺伝子陽性（β-ラクタマーゼ陽性）

は 7 株（6.5%）であった。これらを遺伝子変異によって分類すると、*pbp* 変異なしの β-ラクタマーゼ陰性アンピシリン感受性インフルエンザ菌（以下“BLNAS”とする）15 株（13.9%）、*pbp3-1* 変異の β-ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌（以下“軽度 BLNAR”とする）6 株（5.6%）、*pbp3-2*、*pbp3-1+pbp3-2* 変異の β-ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌（以下“BLNAR”とする）80 株（74.0%）であった。β-ラクタマーゼ陽性アンピシリン耐性インフルエンザ菌（以下“BLPAR”とする）7 株は、全て β-ラクタマーゼ陽性アモキシシリン/クラブラン酸耐性-インフルエンザ菌（以下“BLPACR-”とする）であった。なお、髄膜炎患者の髄液由来 5 株は *pbp3-2* 変異 1 株、*pbp3-1*、*pbp3-2* 変異 4 株であり、全て BLNAR であった。

一方、CLSI による薬剤感受性試験では、BLNAS 37 株（34.2%）、軽度 BLNAR 18 株（16.7%）、BLNAR42 株（38.9%）、BLPAR6 株（5.6%）に分類された。この BLNAS 37 株の内 22 株（59.4%）に *pbp3-1*、あるいは *pbp3-2* 遺伝子変異を検出した。

### 考 察

A 群溶レン菌の月別検出状況は、分離数の 93.9% が 1 月から 6 月までの検出であった。これは、新型インフルエンザの流行に伴い定

表 5 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

CLSIによる 薬剤耐性	<i>pbp</i> 変異							計	
	変異なし	<i>pbp1a</i>	<i>pbp2x</i>	<i>pbp2b</i>	<i>pbp1a+2x</i>	<i>pbp1a+2b</i>	<i>pbp2x+2b</i>		<i>pbp1a+2x+2b</i>
PSSP	9		15		1	8			33
PISP			2		6		12	12	32
PRSP								43	43
未実施	1				1			1	3
計	10		17		8	8	12	56	111

表 6 インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子結果

( )TEM の再掲

CLSIによる 薬剤耐性	TEM	<i>pbp</i> 変異			計	
		変異なし	<i>pbp3-1</i>	<i>pbp3-2</i>		<i>pbp3-1+3-2</i>
BLNAS		15	5	12	5	37
軽度BLNAR			1	2	15	18
BLNAR	2			10	30(2)	42
BLPAR	5			1	(5)	6
未実施					5	5
計	7	15	6	25	55	108

点医療機関から 7 月以降の検体が減少したことによるものと思われた。付表に本調査による A 群溶レン菌 T 型別の年次推移を示した。2009 年の主要血清型は T-1 型, 25 型, 12 型であった。2008 年<sup>2)</sup>は T-12 型による溶レン菌感染症が流行し, T-12 型単独で全体の 66.7 % を占めた。2009 年は, T-12 型が減少し, T-1 型は 2008 年<sup>2)</sup>の 4.3 % を大幅に上回った。T-25 型は 2008 年<sup>2)</sup>には増加傾向を示しており, 2009 年は 1999 年以降の流行株になった。病原微生物検出情報<sup>3)</sup>においても T-1 型, 25 型, 12 型が主要血清型となり, 同様な傾向を示した。

当所は 2002 年から肺炎球菌とインフルエンザ菌について薬剤耐性遺伝子検査を行っている。肺炎球菌のペニシリン耐性遺伝子の保有率はいずれの年も高率であるが 2009 年はさらに増加して 90.9 % となった。マクロライド耐性遺伝子の保有率は検査開始時は 80 % 弱であったが, 2009 年は 97.2 % と増加した。その中でも *mefA* と *ermB* の両方を有しているものは 22.4% で 2007 年<sup>4)</sup>, 2008 年<sup>2)</sup> に比べて急増した。今後, 経過を注視していきたい。

インフルエンザ菌のペニシリン耐性遺伝子保有率は 2004 年<sup>1)</sup>, 2005 年<sup>5)</sup>は約 50 % であ

付表 A群溶レン菌T型別の年次推移 (1989~2009)

	T型	1	2	3	4	6	8	9	11	12	13	14/49	18	22	23	25	28	B3264	型不明	計	
1989	60			1	95	37			2	102	1		3	3			7	5	15	331	
%	18.1			0.3	28.7	11.2			0.6	30.8	0.3		0.9	0.9			2.1	1.5	4.5	100	
1990	39			5	101	55		1	14	75	3		2	10			29	8	22	364	
%	10.7			1.4	27.7	15.1		0.3	3.8	20.6	0.8		0.5	2.7			8.0	2.2	6.0	100	
1991	69	3		2	157	16	2	2	24	212	3		2	27			19	21	25	584	
%	11.8	0.5		0.3	26.9	2.7	0.3	0.3	4.1	36.3	0.5		0.3	4.6			3.3	3.6	4.3	100	
1992	175			31	129		1	1	18	89	2		1	12			5	65	143	672	
%	26.0			4.6	19.2		0.1	0.1	2.7	13.2	0.3		0.1	1.8			0.7	9.7	21.3	100	
1993	85			35	190	1			34	123	4		24	17			31	61	81	686	
%	12.4			5.1	27.7	0.1			5.0	17.9	0.6		3.5	2.5			4.5	8.9	11.8	100	
1994	110			15	172	2			21	265			95	9		1	40	18	36	784	
%	14.0			1.9	21.9	0.3			2.7	33.8			12.1	1.1		0.1	5.1	2.3	4.6	100	
1995		1		2	116	2			9	122			9	4			36	17	14	332	
%		0.3		0.6	34.9	0.6			2.7	36.7			2.7	1.2			10.8	5.1	4.2	100	
1996	125				103	111			7	41			4				18	7	54	470	
%	26.6				21.9	23.6			1.5	8.7			0.9				3.8	1.5	11.5	100	
1997	82	4			66	39			7	61				4			25	11	17	316	
%	25.9	1.3			20.9	12.3			2.2	19.3				1.3			7.9	3.5	5.4	100	
1998	58	17			57	37			6	100				1		42	43	10	18	389	
%	14.9	4.4			14.7	9.5			1.5	25.7				0.3		10.8	11.1	2.6	4.6	100	
1999	55	5			68	3	1	3	59	4			1				66	42	6	357	
%	15.4	1.4			19.0	0.8	0.3	0.8	16.5	1.1			0.3				18.5	11.8	1.7	12.3	100
2000	51	4			22	34			1	74		1		6			16	8	14	241	
%	21.2	1.7			9.1	14.1			0.4	30.7		0.4		2.5			6.6	3.3	5.8	100	
2001	84	5	9		46	7			1	97	1						6	10	8	279	
%	30.1	1.8	3.2		16.5	2.5			0.4	34.8	0.4						2.2	3.6	2.9	100	
2002	23	17	40		97	3			4	58							11	18	5	279	
%	8.2	6.1	14.3		34.8	1.1			1.4	20.8							3.9	6.5	1.8	100	
2003	24	1	17		107				1	99	1					1	11	12	27	307	
%	7.8	0.3	5.5		34.9				0.3	32.2	0.3					0.3	3.6	3.9	8.8	100	
2004	80	1	2		42	18			4	73	1						8	4	11	248	
%	32.3	0.4	0.8		16.9	7.3			1.6	29.4	0.4						3.2	1.6	4.4	100	
2005	21		15		33	19			4	20							4	3	6	127	
%	16.5		11.8		26.0	15.0			3.1	15.7							3.1	2.4	4.7	100	
2006	138		3		52	44			9	41	3						6	9	2	307	
%	45.0		1.0		16.9	14.3			2.9	13.4	1.0						2.0	2.9	0.7	100	
2007	16		2		32	5			8	71							3		15	156	
%	10.3		1.3		20.5	3.2			5.1	45.5							1.9		4.9	100	
2008	9	1			11	4			1	138	1						24	2	8	207	
%	4.3	0.5			5.3	1.9			0.5	66.7	0.5						11.6	1.0	3.9	100	
2009	39		7		7				1	23	1			1			25	1	8	115	
%	33.9		6.1		6.1				0.9	20.0	0.9			0.9			21.7	0.9	7.0	100	
計	1,338	59	186	1,703	437	3	5	179	1,943	25	1	140	95	1	217	359	340	515	7,551		
%	17.7	0.8	2.5	22.6	5.8	0.0	0.1	2.4	25.7	0.3	0.0	1.9	1.3	0.0	2.9	4.8	4.5	6.8	100		



ったが，2009 年は 86 % になり，急速に耐性が進んでいることが推測された．耐性遺伝子による薬剤感受性と CLSI による薬剤感受性を比較すると，2009 年に CLSI 分類の BLNAS は 34 % であるのに対して遺伝子上の分類は 15 % であり，遺伝子上では耐性の割合が倍以上になっている．CLSI の基準は米国の臨床効果に基づいているため，遺伝子上の分類とは必ずしも一致しないが，耐性遺伝子検出は正確な薬剤耐性菌の状況を把握する上で重要であると思われた．

### まとめ

- 1 2009 年 1 月から 12 月まで採取された検体 411 件から 367 株の細菌を分離した．
- 2 A 群溶レン菌 115 株は T-25 型が 21.7 % を占め，調査を開始してから最も高率であった．
- 3 腸管系病原菌は *Salmonella* 4 株，*Campylobacter jejuni* 2 株，下痢原性大腸菌 8 株を分離した．
- 4 *Salmonella* の血清型は 3 種類で，Enteritidis 2 株，Typhimurium，Schleissheim 各 1 株であった．
- 5 大腸菌の血清型は 6 種類で，O1 が 4 株，O74 が 4 株，O86a が 2 株，O15，O18，O126 が各 1 株であった．いずれの大腸菌にも毒素遺伝子は認めなかった．
- 6 髄液からの分離菌は *E. coli* 3 株，*Listeria monocytogenes* 3 株， $\beta$ -ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 5 株，ペニシリン感受性肺炎球菌，ペニシリン中等度耐性肺炎球菌，ペニシリン耐性肺炎球菌各 1 株であった．
- 7 肺炎球菌は 111 株，インフルエンザ菌は 108 株分離された．
- 8 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検査では，90.9 % に変異が認められ，ペニシリン感受性肺炎球菌 9.0 %，ペニシリン中等度耐性肺炎球菌 40.5 %，ペニシリン耐性肺炎球菌 50.5 % であった．マクロライド耐性遺伝子は 97.2 % に認めた．
- 9 インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検査では，86.1 % に変異が認められ， $\beta$ -ラクタマーゼ陰性アンピシリン感受性インフルエンザ

菌 13.9 %， $\beta$ -ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌 5.6 %， $\beta$ -ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 74.0 % であった．

10 百日咳疑い患者の鼻咽頭拭い液 2 件中 1 件から培養で百日咳菌を分離した．

### 謝 辞

検体採取等本事業にご協力いただいた病原体定点の医療機関の諸先生方に深謝いたします．

### 引用文献

- 1) 平沢恭子，須釜久美子，熊谷奈々子他．2004 年感染症発生動向調査事業報告（細菌）．福島県衛生研究所年報 2004；22：59-66．
- 2) 小黒祐子，菅野奈美，渡邊奈々子，他．2008 年感染症発生動向調査事業報告（細菌）．福島県衛生研究所年報 2008；26：76-82
- 3) 国立感染症研究所 感染症情報センター <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> 2010/2/3
- 4) 小黒祐子，菅野奈美，渡邊奈々子，他．2007 年感染症発生動向調査事業報告（細菌）．福島県衛生研究所年報 2007；25：92-99
- 5) 平沢恭子，須釜久美子，熊谷奈々子他．2005 年感染症発生動向調査事業報告（細菌）．福島県衛生研究所年報 2005；23：80-87．

## 2008/09, 2009/10 シーズンのインフルエンザの流行状況について

門馬直太 北川和寛 菅野奈美 五十嵐郁美 結城智子<sup>1)</sup> 柏原尚子  
小黒祐子 廣瀬昌子<sup>2)</sup> 佐藤弘子<sup>1)</sup> 平澤恭子 須釜久美子 三川正秀<sup>3)</sup> 大竹俊秀  
微生物課<sup>1)</sup> 総務企画課<sup>2)</sup> 試験検査課<sup>3)</sup> 前福島県衛生研究所

### 要 旨

2008/09 シーズンのインフルエンザ患者数は過去 10 年間で最も多く、1 月下旬と 3 月上旬の 2 峰性のピークを示す特徴的な発生状況を示した。ウイルスの分離状況から前半のピークは A (H1) 型、後半のピークは B 型 (ビクトリア系統) によるものであることが示された。A (H3) 型は目立ったピークを形成せず 12 月から 7 月にかけて長期間に渡って検出された。

2009 年 4 月に北中米で新型インフルエンザ A (H1N1) が発生し、6 月下旬には本県で初の患者が確認された。その後県内でも感染は拡大し 7 月以降に検出された全てのウイルスが A (H1pdm) であった。

キーワード：インフルエンザウイルス 新型インフルエンザ A (H1N1) HI 試験

#### はじめに

当所は感染症発生動向調査事業に基づき、インフルエンザ流行の早期探知を目的として、県内 80 定点医療機関から報告される患者の発生状況を週毎に集計している。併せて病原体定点 10 医療機関から毎月搬入される検体からインフルエンザウイルスの検索を行い、さらに亜型の同定を行っている。

2009 年 4 月下旬に北中米で新型インフルエンザ A (H1N1) の感染者が報告され、6 月下旬には本県において初の患者が確認された。当所は新型インフルエンザ患者の全数把握や集団感染の早期探知を目的とした遺伝子検査を行うとともに、ウイルス変異を監視するため病原体発生動向調査を強化し (ウイルスサーベイランス)、週毎に搬入される検体から新型インフルエンザウイルスを分離し、抗原性の変化や病原性に関与する変異の監視を行っている。

本報では、2008 年 9 月から 2009 年 12 月までのインフルエンザの患者発生数とウイルスの分離状況を解析し、新型インフルエンザ発生の前後における県内のインフルエンザ流行状況について報告する。

#### 材 料

##### 1 感染症発生動向調査事業

2008 年 9 月から 2009 年 12 月までに病原体定点医療機関より搬入された検体のうち、上気道炎症状を呈した患者に由来する 907 検体を用いた (表 1)。

##### 2 新型インフルエンザ発生に伴う全数把握検査及びクラスター・基礎疾患・入院サーベイランス

2009 年 5 月から 12 月までに県内医療機関において新型インフルエンザの感染が疑われる患者から採取された咽頭拭い液または鼻腔拭い液、鼻汁、気管吸引液、喀痰計 163 検体を用いた (表 1)。なお、基礎疾患サーベイランスは 1 検体搬入されたが、本報では入院サーベイランスと合わせて集計した。

##### 3 ウイルスサーベイランス

2009 年 8 月から 12 月に 10 病原体定点医療機関より搬入された新型インフルエンザの感染が疑われる患者から採取された咽頭拭い液または鼻腔拭い液、鼻汁、髄液、喀痰計 375 検体を用いた (表 1)。

#### 方 法

##### 1 患者発生状況

県内 80 定点医療機関においてインフルエンザと診断された患者数を週毎に集計した。

表1 事業又はサーベイランス別検査検体数

事業又はサーベイランス名	上気道拭い液	鼻汁	髄液	気管吸引液	喀痰	計
感染症発生動向調査事業	886	2	14	5		907
全数把握検査	42					42
クラスターサーベイランス	50	1				51
入院サーベイランス	67	1		1	1	70
ウイルスサーベイランス	360	11	3		1	375
計	1,405	15	17	6	2	1,445

## 2 ウイルス分離及び同定

感染症発生動向調査事業及びウイルスサーベイランスにより搬入された検体について MDCK 細胞（イヌ腎細胞）によるウイルス分離を行った。細胞変性効果（CPE）が確認された検体については、国立感染症研究所から配付された抗血清による赤血球凝集抑制（HI）試験を行い、下記の同定用抗血清を使用して同定した。

- ①A/Brisbane/59/2007（H1N1）※<sup>1</sup>
- ②A/Uruguay/716/2007（H3N2）※<sup>1</sup>
- ③B/Florida/4/2006（山形系統）※<sup>1</sup>
- ④B/Malaysia/2506/2004（ビクトリア系統）
- ⑤A/California/7/2009（H1N1pdm）※<sup>2</sup>

※<sup>1</sup> 2008/09 シーズンワクチン株

※<sup>2</sup> 新型インフルエンザワクチン株

## 3 遺伝子検査

新型インフルエンザ発生に伴う全数把握検査及びクラスターサーベイランス、入院サーベイランスにより搬入された検体については、国立感染症研究所「病原体検出マニュアル H1N1 新型インフルエンザ」に従って、リアルタイム RT-PCR、コンベンショナル OneStep RT-PCR による遺伝子検査を行った。

### 結果及び考察

#### 1 患者発生状況

新型インフルエンザ A（H1N1）が 2009 年 4 月に発生し、その後も感染を拡大し、季節性インフルエンザとは全く異なる流行状況を示したため、本報では 2008/09 シーズンと 2009/10 シーズンの 2008 年 9 月から 2009 年 12 月までを一つのシーズンとして 2008/09 シーズンの季節インフルエンザから新型インフルエンザ A（H1N1）の流行状況について分析を行った。

インフルエンザ患者報告数は、2008 年第 49 週に流行開始の指標と考えられる定点あたりの報告数 1.0 を超え、2009 年第 4 週に定点あたり 36.3 のピークとなった（図 1）。その後第 8 週には定点あたりの報告数が 11.4 と減少したが、第 12 週に再びピークを形成し特徴的な 2 峰性を示した。その後患者報告数は顕著に減少したが、新型インフルエンザと思われる患者が徐々に増加し第 33 週には定点あたりの報告数が 2.53 と小さなピークを形成した。その後、第 40 週から患者数が増加し、第 48 週で定点あたりの報告数が 42.4 とピークを形成した。通常、インフルエンザ患者数は第 2 週から第 10 週前後にピークとなるため、新型インフルエンザは明らかに季節性インフルエンザとは異なる流行を示した。

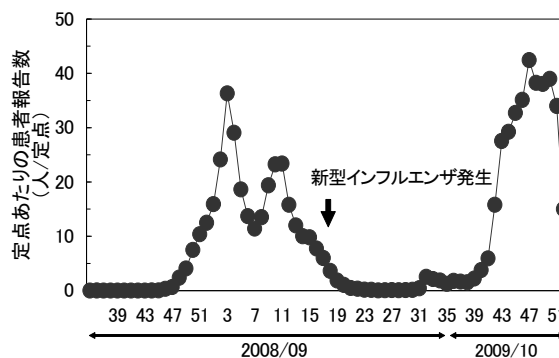


図1 インフルエンザ患者報告数

2008/09 シーズン総報告患者数は 27,427 人であり、過去 10 年間の比較で 2 番目に多いシーズンとなった（図 2）。一方、ピーク時の定点あたりの報告数は過去 10 年間では 5 番目であり、2004/05 シーズンの 53.7 に比べ明らかに低い値であった。ピーク時の定点あたりの報告数が 5 番目であったにもかかわらず、総報告数が最多であった原因は、A（H1）型、B 型の二つ型が流行したこと、さらに新型イ

表 2 MDCK 細胞による月別分離検体数

検体採取月	2008年					2009年												計
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
検査検体数	50	26	39	62	116	112	95	54	59	41	54	115	81	138	140	100	1,282	
A(H1)			3	23	54	24	13										117	
A(H3)				7	6	6		12	4								35	
B(Victoria)				1	2	44	54	12	5								118	
A(H1pdm)											6	50	31	95	96	52	330	
計	0	0	3	31	62	74	67	24	9	0	6	50	31	95	96	52	600	

ンフルエンザにより 6 月から 8 月の夏場に感染が拡大したためと考えられる。2009/10 シーズンの 12 月末時点での患者報告数は 29,214 人であり、シーズン途中でありながら過去 10 年間で最も多い患者数となっている。ピーク時定点あたりの患者報告数は 2004/05 シーズンに次ぐ 42.4 であったが、福井県、大分県のピーク時定点あたりの患者報告数 95.44<sup>1)</sup>、77.21<sup>2)</sup> に比べ明らかに低く、本県においては当初危惧されていた急激な感染拡大は回避されたものと考えられる。

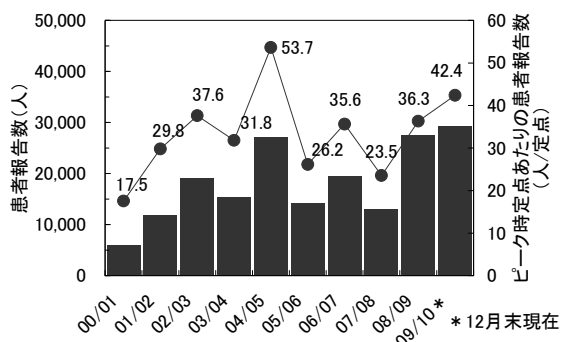


図 2 患者報告数及びピーク時定点あたりの患者報告数シーズン比較

## 2 ウイルス検出状況

感染症発生動向調査事業及びウイルスサーベイランスにより搬入された検体について MDCK 細胞によるウイルス分離を行い、HI 試験による同定を行った結果、1,282 検体中 600 検体からインフルエンザウイルスが分離された (表 2)。2008 年 11 月から 2009 年 1 月のシーズン始めは A (H1) 型が検出ウイルスの約 80% を占め、その後の 2 月から 5 月にかけては B 型 (ビクトリア系統) が約 65% を占めた。2008/09 シーズンの患者報告数の 2 つのピークはそれぞれ A (H1) 型、B 型 (ビクトリア系統) によるものであったと推測さ

れる。また同シーズンの B 型インフルエンザのワクチン株が山形系統であったことは、ビクトリア系統が流行した要因の一つと推測される。

7 月以降に分離された 330 株は、全て新型インフルエンザウイルス A (H1pdm) であり、A 型、B 型ともに季節性インフルエンザウイルスは分離されなかった。

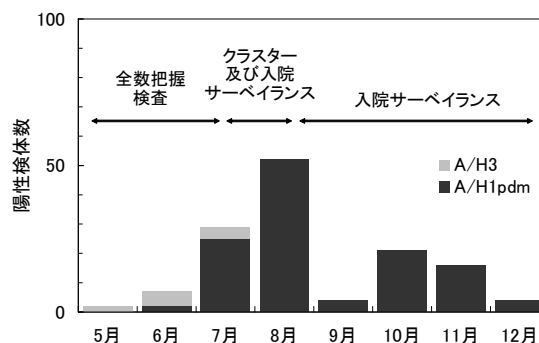


図 3 月別遺伝子検査検出検体数

全数把握検査及びクラスター・入院サーベイランスにより搬入された検体は遺伝子検査によりインフルエンザウイルスの検出を行った。その結果、163 検体中 A (H1pdm) が 123 検体、A(H3)が 11 検体検出された (図 3)。特に、A (H3) 型は 6 月から 7 月にかけての集団感染事例から検出されており、冬期間のみならず春から夏にかけて季節性インフルエンザも集団感染の原因となることが示された。

今後は引き続き重症化患者について迅速な遺伝子検査を行うとともに、細胞培養により分離されたウイルス株について、抗原性の解析、抗インフルエンザ薬に対する感受性を調査し、変異の監視を行っていきたい。

## 謝 辞

本調査を行うにあたり、検体採取にご協力いただきました県民の皆様並びに各医療機関の諸先生、国立感染症研究所、保健所職員の方々に深く感謝いたします。

## 引用文献

- 1) インフルエンザ，福井県感染症情報  
<http://www.erc.pref.fukui.jp/kansen/>
- 2) インフルエンザ，大分県感染症情報  
<http://www.coara.or.jp/%7Eeikan/bisei/index.htm>